# 令和4年度 第4次多摩市生涯学習推進計画

# 評価報告書



令和6年2月 多摩市 くらしと文化部 文化・生涯学習推進課

# 目次

1	第4次多摩	市	生	涯!	学	習:	推	進	<u>=</u> +	曲	の	評	価	に	つ	しり	7	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
2	外部評価	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
3	内部評価・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	14

### 1 第4次多摩市生涯学習推進計画の評価について

生涯学習推進計画は、市民一人ひとりの自由な学びを尊重しつつ、学びが内包するガバナンス機能 (社会を運営する機能)に着目して、それらを緩やかにまとめ、未来に向けた地域コミュニティの方向 性を示す計画です。計画中の生涯学習を推進するための施策は、市民が生涯学習をするための条件整備 を通じて、「学習のプロセス」を応援するものです。情報収集から個人の活動、他者との交流、仲間と の活動、地域との関わりといった、様々な段階の中で、市民一人ひとりの「学習のプロセス」を応援することで、課題を乗り越え、自らの可能性を広げようとする人を増やすことを目指します。

計画期間は、令和3年度から12年度までの10か年とし、社会情勢や行政施策の変化等を総合的に判断し、5年をめどに中間見直しを行います。

計画の評価は、毎年行う内部評価と2年に1度の外部評価により行います。内部評価にあたっては、11項目ある推進項目の中を、24の個別施策にカテゴライズし、個別施策に紐づく関連事業を単位とし、アウトプット\*1と初期アウトカム\*2を庁内調査し、行っています。外部評価にあたっては、中間アウトカム\*3として、推進項目ごとに多摩市政世論調査等による成果目標を設定しています。

外部評価は、個別施策事業を実施したことで成果目標の向上が図られたかどうかを外部評価者により確認をするものです。定期的に外部評価を行うことで、事業の実態や成果を客観的に分析し、本計画のPDCAサイクルの適正化を図り、本計画の着実な推進につなげていきます。

外部評価者については、本計画の策定にかかわった元生涯学習推進計画策定委員会委員長である学識者と同じく元策定委員会委員である市民の方に評価していただくことで、計画の策定時から一貫して成果目標の向上が図られたかどうか確認します。

この評価結果については、計画の着実な推進を図るために、各関係課長で組織した「多摩市生涯学習 推進本部専門委員会」において共有、協議し、個別施策の改善に向けた取り組みに活かしていきます。 そして、これらの評価については、社会情勢の変化、行政施策の変化等と合わせて総合的に判断した内 容を、計画の中間見直しに反映させます。

今年度は外部評価を実施する年であり、生涯学習推進計画の令和4年実績について、内部評価及び外部評価を一つにまとめたものがこの評価報告書となります。

- \*1アウトプット:事業を実施した直接の結果
- \*2 初期アウトカム: アウトプットが生じたことでその因果の連鎖の結果、事業対象等ともたされる変化
- \*3中間アウトカム:市民の行動様式等に及ぼされた変化

### (1)評価のプロセス

アウトプッ

- •個別施策に関連する事業毎のアウトプットの設定
- •前年度との比較
- •毎年度、調査し、内部評価のベースとする

初期アウトカ

- •アウトプット毎の初期アウトカム設定
- •前年度との比較
- •毎年度、調査し、内部評価のベースとする

中間アウトカ

- •11の推進項目ごとに成果指標を設定
- •世論調査等を基にした成果指標の推移を確認
- •2年に1度調査し、外部評価のベースとする

最終アウトカ

•「学びあいがつむぐ"健幸"なまち」の達成

計画の詳細についてはコチラを参照ください⇒



### (2) 評価の経緯

令和4年度第4次多摩市生涯学習推進計画の評価実施の経過は下記のとおり。

年月日	主な内容
令和5年4月	生涯学習推進本部専門委員会にて第4次多摩市生涯学習推進計画の進
	行管理についての協議
令和5年5月	第4次計画の進捗状況(令和4年度の関連事業実績)庁内調査
令和5年7月	生涯学習推進本部専門委員会にて内部評価案の協議
令和5年8月	学びあい育ちあい推進審議会にて内部評価案に対する意見聴取
令和5年10月	生涯学習推進本部会議にて内部評価の協議・決定
令和5年12月	内部評価及び市政世論調査をもとに外部評価者による評価
令和6年1月	生涯学習推進本部会議にて評価報告書の協議・決定

### (3) 成果目標(過去3回)

推進項目ごとに成果目標を設定し、向上を図ります。

目指す方向1 誰もが一歩をふみだせるまち

	推進項目	成果目標	令和元年	令和3年	令和5年
	推進項目	<u> </u>	(第38回)	(第39回)	(第40回)
1	広報・情報提 供	市政情報の入手手段として「公式 SNS」を利用する市民の割合の向上(X(旧公式ツイッター)の割合)	1.3%	1.8% (/)	0.9% (\sqrt)
2	相談	地域福祉の推進についての市政に「満足」「やや満足」 している市民の割合の向上	17.6%	20.2% (/)	18.3% (→)
3	居場所・場づ くり	「地域の支え合いにより住み慣れた地域で暮らし続けられるまち」であるかの設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合の向上	46.5%	47.9% (→)	43.9% (→)

### 目指す方向2 人と人とがつながり認め合うまち

	推進項目	成果目標	令和元年	令和3年	令和5年
	推進場日	以木口际	(第38回)	(第39回)	(第40回)
4	地域活動・地域づくり	「多様な担い手が協働し、人々がつながりを持って互いに支え合えるまち」であるかの設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合の向上	15.0%	16.1% (→)	15.4% (→)
5	学習の機会づ くり	「文化活動やスポーツをするための環境がよいまち」 であるかの設問に、「そう思う」「どちらかといえばそ う思う」と回答した市民の割合の向上	39.9%	41.7% (→)	34.9% (\_)

### 目指す方向3 いつでもどこでも自分を高められるまち

	推進項目	成果目標	令和元年	令和3年	令和5年
	推進項目	<u> </u>	(第38回)	(第39回)	(第40回)
6	ボランティ ア•市民活動	この1年くらいの間に「ボランティア活動や地域活動に関するもの」について、「現在、学習している」「これまでに学習したことがある」と回答した市民の割合の向上	16.0%	14.8% (→)	18.3% (/)
7	大学・社会教 育施設との連 携	市民の学びに資する大学との連携事業数の増加	99 事業	55 事業 (↘)	66 事業 (ノ)
8	誰もが学べる 環境づくり	この1年くらいの間に「生涯学習」を「現在、学習している」「これまでに学習したことがある」と回答した市民の割合の向上	69.4%	68.4% (→)	70.2% (→)

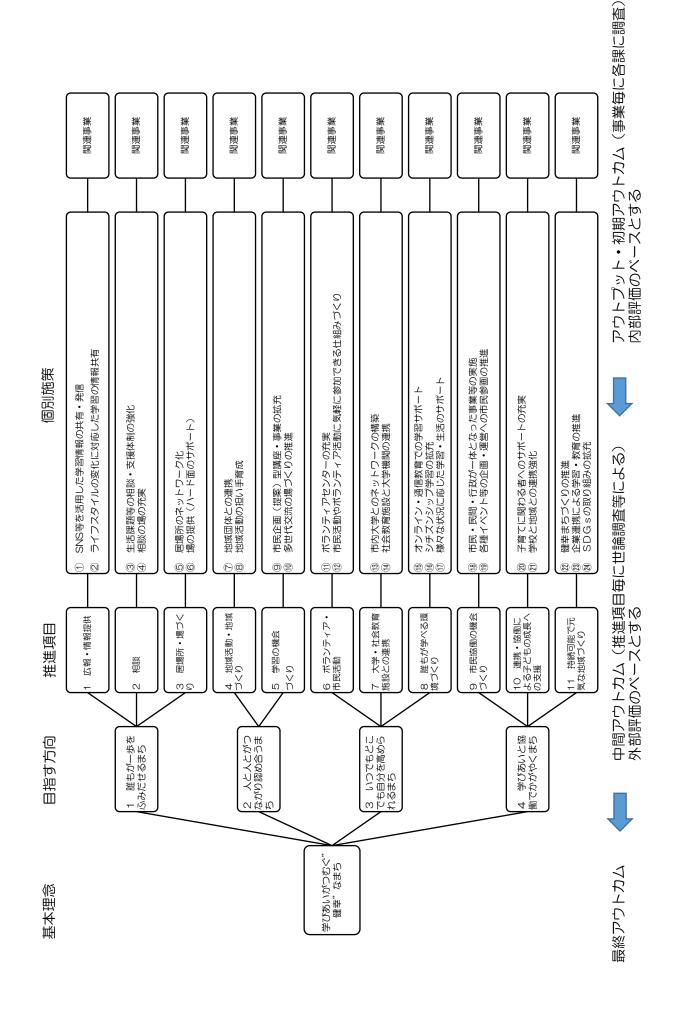
### 目指す方向4 学びあいと協働でかがやくまち

	推進項目	成果目標	令和元年	令和3年	令和5年
	推進項目	<u> </u>	(第38回)	(第39回)	(第40回)
9	市民協働の機 会づくり	市民参加のまちづくりについての市政に「満足」「やや 満足」している市民の割合の向上	14.5%	13.0% (\_)	16.2% (/)
10	連携・協働に よる子どもの 成長への支援	「子どもがのびのびと過ごし、学び、成長できるまち」 であるかの設問に、「そう思う」「どちらかといえばそ う思う」と回答した市民の割合の向上	60.1%	63.5% (→)	56.9% (\_)
11	持続可能で元 気な地域づく り	「健幸都市(スマートウェルネスシティ)・多摩」の推進(健幸まちづくり)の取り組みについて「よく知っている」「少し知っている」と回答した市民の割合の向上	38.8%	49.6% (/)	51.1% (→)

※出典:第38回(令和元年度)、第39回(令和3年度)、第40回(令和5年度)、推進項目7のみ企画課

※前回比で上昇・下降率 10%未満は「→ (横ばい)」で表示

# (4) 第4次 多摩市生涯学習推進計画の体系



### 【コラム】学びの中で育まれる持続可能な未来への一歩 ①

### ~ わがまち学習講座が持つポテンシャル ~

11年目を迎えた令和5年度のわがま ち学習講座は、受講者が市長に立候補す る想定で、市に必要なことや地域の課題 を考え、マニフェストをつくるというテ ーマで行われました。6つのグループに 分かれた受講者が活発に議論を交わし、 マニフェストを完成させ、発表していま した。参加者からは、「地域の人々の考 え、課題意識など、それぞれの立場から



< 受講者によるマニフェストの発表 >

の意見が興味深かった。」「マニフェスト策定について学べた。」などのご意見がありました。 自分のまちのことを改めて真剣に考え意見を交わす、貴重な機会・体験となったと思います。

わがまち学習講座は、新たな市民主体のまちづくりを担う人材の発掘・養成を目的として、 平成 25 年に始まりました。始めの数年間は、行政の取り組みを紹介する座学やまち歩きに より、地域の現状を知るといった内容で行われていました。徐々にワークショップ形式に形 を変えていき、途中コロナ禍で講座が開催できない時もありましたが、近年では、まちづく りシミュレーションゲームや「地域カルテ」など、受講者が主体的に自ら、まちの課題やあ り方を考える講座へと発展していきました。

わがまち学習講座のように、市民が自 分の暮らしているまちのことを、自分ご ととして意識して考え、意見を交わす。 そして、新たなつながりが出来る。さら に、講座に参加したことがきっかけとな り、自分の住んでいる地域に戻った時に 何らかの行動につながる。こういったー 連のプロセスが生涯学習の持っている 大切な要素の一つとなります。そして、 こうした講座の参加者が、1人でも多く



< 令和5年度 わがまち学習講座受講者の皆さん >

地域に関心を持ち続け、ひいては、担い手として活躍されていくことが、まちの将来の希望 となるものと考えます。



2 外部評価



### 第4次多摩市生涯学習推進計画 令和4年度実績に対する外部評価にあたって

学識経験者(元第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会委員長) 笹井 宏益 市内で主体的に生涯学習に係る活動を行う者(同委員) 小泉 雅子

今回の外部評価は、第4次多摩市生涯学習推進計画が策定され、2ヵ年の事業が経過したところでの初めての実施となる。コロナ禍からの回復過程にある段階での評価であり、計画の進捗具合をどのように評価すべきか、難しい側面があったことは否めない。すなわち、内部評価においては、定量的な指標に基づいて分析・考察が行われていることを踏まえ、外部評価としては、むしろ定性的に評価することを重視したが、定性的であればこそ、評価にかかる基準をどこにおくか、いくつか難しい点があった。

そうした曖昧さを考えても、全体的に見て、多くの施策・事業の実施により、計画が 着実に進捗していることが明確に認識されたことは、好ましいことである。コロナ禍に よる困難は乗り越えたものと考えられる。

しかしながら、コロナ禍がもたらした禍根も大きい。計画の理念が、つながりを重視し、その面的な広がりを目指しているからこそ、孤立・孤独という「つながりの切断」は、重大な意味を持つ。今後は、様々な局面においても柔軟に対応していける様にリアルとバーチャルという2つのアプローチから、計画の具体的な推進に努めることが望まれている。

計画が着実に実行され、今後、多摩市における生涯学習活動が発展することを期待する。



目指	す方向	]	1	誰もが一歩をふみだせるま	<b>まち</b>		
推進」	項目		1 広報・情報整理	2 相談	3 居場所づくり・場づ		
					<b>くり</b>		
成果	目標		市政情報の入手手段とし	地域福祉の推進について	「地域の支え合いにより		
			て「公式 SNS」を利用す	の市政に「満足」「やや満	住み慣れた地域で暮らし		
			る市民の割合の向上(X	足」している市民の割合	続けられるまちである		
			(旧公式ツイッター)の	(旧公式ツイッター)の の向上			
			割合)		「どちらかといえばそう		
					思う」と回答した市民の		
					割合の向上		
成	R1 -	世論調査	1.3%	17.6%	46.5%		
成果指標	R3	世論調査	1.8% 🗷	20.2% 🗷	47.9% →		
標	R5	世論調査	0.9% 🛰	18.3% →	43.9% →		
生涯!	学習	評価者	である私自身は、公式 SNS	による多摩市からの情報収	双集の利用が2年前と比較		
に係	•	して格段	に増加している。内部評価	の「実績と考察」には言及る	されていなかったが、AIに		
動を	行う	よる自動	学習機能により、「自身の植	<b>検索した関連度の高いもの」</b>	「友人のいいねした投稿」		
者か	らの	などがS	NS のタイムラインに反映	されるため、自身が検索をし	ンなくても多摩市の情報を 		
意見		得やすく	なっていることが要因と考	えられる。今後も、多摩市台	S所管課が投稿を継続すれ 		
			度的に利用者が増加すると				
			報についても、表紙のイン				
			まわりでは多摩市の企画は				
			こついては多様な団体、世代の居場所としての期待が大きく、特に4階にある子育				
			DLIVE は安全、清潔、無料の	の子育て施設として評価が高	高く、連日安定して利用さ   		
22.7			と感じられる。				
学識			模での ICT の発展と普及に				
者か			えつつあったが、コロナ禍		,		
提言			をさらに促した。こうした				
てバーチャルによる手法の活用を進めることが必要である。具体的には、インターネット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・							
や SNS において、テキストや画像よりも動画を中心とした情報発信が望まれる。							
その一方で、「多摩市立市民活動・交流センター」といった生涯学習にかかる拠点							
とでもいうべき重要な施設の開設や「ふれあいいきいきサロン」の増設など、それ							
		市民の居	場所や相談あるいは地域づ	くりや市民沽動を促すリア	ルな場として、今後の活用		

リアルとバーチャルを場面に応じて、手法による強みを適切に使い分け、それぞれの特性

すなわち、目指す方向1として「誰もが一歩をふみだせるまち」が推進されるためには、

が期待されるものである。そのためにも、施設の趣旨や運営方針等にかかる情報が、メデ

を十分活かして市民生活をサポートする、という視点がさらに重要となる。

ィアを通して、着実に市民に届けられなければならない。

※出典:第38回(R1)、第39回(R3)、第40回(R5) ※前回比で上昇・下降率10%以上を「✓」「↘」で表示

日均	<u> </u>	2	人と人がつながり認め合う	まち
	9 / 기 년	2	人に入る グある グージョン	<u> </u>
推進項目		4 地域活動・地域づく	5 学習の機会づくり	
		り		
成果目標		「多様な担い手が協働	「文化活動やスポーツを	
		し、人々がつながりを持	するための環境がよいま	
		って互いに支え合えるま	ちであるか」の設問に、	
		ちであるか」の設問に、	「そう思う」「どちらかと	
		「そう思う」「どちらかと		
		いえばそう思う」と回答	した市民の割合の向上	
		した市民の割合の向上		
成	R1 世論調査	15.0%	39.9%	
成果指標	R3 世論調査	16.1% →	41.7% →	
標	R5 世論調査	15.4% →	34.9% 🛰	

# 生涯学習に係る活動を行う者からの意見

コロナ後ということもあり、地域活動、地域づくりの機会が増え、地域ふれあいフォーラムや若い方を対象としたイベントなど様々なフェスティバルや各地でイベントが再開され、華やかで若年層にも受けがよいイベントが増加したように思われる。街全体に活気が感じられるようになり、今後も更に推進項目4の評価は増加するのではないか。市民活動・交流センターなどの新施設の利用についても、団体登録数が多く、今後のアウトカムの増加に期待したい。

一方で、駅周辺の施設利用やイベントでの集客について、従来の施設の活用においては、 コロナ明けによる影響で増加しているだけにならないよう引き続き活用方法を考えたい。 多摩市のどの地域でも、地域活動や学習の機会が公平に享受されるためには、新しい施設 だけでなく従来の施設の魅力を周辺地域の人たちへ発信することも継続して必要と思われる。

### 学識経験 者からの 提言

「地域ふれあいフォーラム」などこれまで中止されていた多くの事業が再開され、多様な学びの機会が提供されるとともに、地域団体との連携が図られたり、地域活動の担い手育成が行われたりしたことは、コロナ禍からの順調な回復を示すものとして、評価できる。また、「(仮称) 地域委員会構想」においては、具体的な協働のしくみづくりに向けて議論が行われ、地域づくりが前進したことも、好ましいことである。このような状況は、コロナ禍からの回復に伴い、計画の実施にかかる取組みが、適時・適切に進捗していることを示すものと推察できる。

目指す方向2の「人と人がつながり認め合うまち」というテーマは、基本的には、市民 や市民団体同士の関係性の在りようにかかるものであり、行政機関としては、それを促す 仕組み作りや「場」の提供といった、いわば間接的にサポートする形の取組みが求められ ている。

計画に掲げられている事業・施策は、こうした要請に対応するものと考えられ、引き続きそれらの事業・施策の充実に努めることが肝要である。

※出典:第38回(R1)、第39回(R3)、第40回(R5) ※前回比で上昇・下降率10%以上を「✓」「↘」で表示

目指	す方向	3 117	でもどこでも自分を高めら	れるまち		
推進項目		6 ボランティア・市民	7 大学•社会教育施設	8 誰もが学べる環境づ		
		活動	との連携	<り		
成果	目標	この1年くらいの間に	市民の学びに資する大学	この1年くらいの間に		
		「ボランティア活動や地	との連携事業数の増加	「生涯学習」*を「現在、		
		域活動に関するもの」に		学習している」「これまで		
		ついて、「現在、学習して		に学習したことがある」		
		いる」「これまでに学習し		と回答した市民の割合の		
		たことがある」と回答し		向上		
		た市民の割合の向上				
成	R1 世論調査	16.0%	99 事業	69.4%		
果指標	R3 世論調査	14.8% →	55 事業 🤏	68.4% →		
標	R5 世論調査	18.3% 💌	66 事業 🗾	70.2% →		

# 生涯学習 に係る活 動を行う 者からの 意見

ボランティア活動・市民活動が増加していることは街のイベントの再開や施設の開館等により、活動の機会が活発になったことでも実感できる。また、近隣大学などの若年層の積極的な参加も感じられ、推進項目6及び7の成果指標の増加について異論はない。今後も、多摩市の至る所でボランティア活動や市民活動の意欲が高まるような機会があることに期待したい。

推進項目8「誰もが学べる環境づくり」については、コロナ禍でオンライン講座や多摩市公式 YouTube などの情報インフラを整えたことにより、学習環境の選択肢が増加したことは「誰もが」という目標を達成しやすいように思う。仮に、今後、オンラインでの利用者が減ったとしても、それが直ちに初期アウトカムの減少にはならない分野だと思うので、コロナ禍後に、対面が主流になったとしても、オンライン講座などを情報インフラとして継続・充実してほしい。

### 学識経験 者からの 提言

依然としてコロナ禍の影響を受けて実績が減少している事業や、実施状況が現状維持にとどまった事業があった。一方で、「多摩ボランティア・市民活動支援センター」においては、来館者数が増加したり、「援農ボランティア」のように、結果的にアウトプット・アウトカムは減少しているが、ボランティア数が募集人数を超過したりした事業もある。他方、「大学連携事業」においては、コロナ禍からの回復に伴い事業数も回復している。こうした傾向から見ると、市民全体として、ボランティア活動に対する潜在的な関心・意欲は高いものと推察できる。

目指す方向3に掲げる「いつでもどこでも自分を高められる」ことの原動力となるものは、ポジティブな生き方に対するボランタリズムであることを考えると、こうした事業によりボランタリズムを顕在化することは重要であり、それらにかかる指標が上向きになっていることは、好ましい動向と考えられる。

こうしたことを踏まえ、計画に掲げられている諸事業の充実を通して、引き続きその推 進に努めることが期待される。

※出典:第38回(R1)、第39回(R3)、第40回(R5)、推進項目7のみ企画課回答

※前回比で上昇・下降率 10%以上を「┛」「┗」で表示

目指	す方向	4	学びあいと協働でかがやく	まち	
推進項目		9 市民協働の機会づく	10 連携・協働による子	11 持続可能で元気な	
		り	どもの成長へ支援	地域づくり	
成果	目標	市民参加のまちづくりに	「子どもがのびのびと過	「健幸都市(スマートウ	
		ついての市政に「満足」	ごし、学び、成長できる	ェルネスシティ)・多摩」	
		「やや満足」している市	まちであるか」の設問に、	の推進(健幸まちづくり)	
		民の割合の向上	「そう思う」「どちらかと	の取り組みについて「よ	
			いえばそう思う」と回答	く知っている」「少し知っ	
			した市民の割合の向上	ている」と回答した市民	
				の割合の向上	
成	R1 世論調査	14.5%	60.1%	38.8%	
果指標	R3 世論調査	13.0% 🛰	63.5% →	49.6% 🗾	
標	R5 世論調査	16.2% 🗾	56.9% 🛰	51.1% →	

生涯学習 に係る活 動を行う 者からの 意見 目指す方向4においてはコロナ明けと、パルテノン多摩、市民活動・交流センターなどの開館により利用者数・参加者数のアウトカムの増加が顕著である。一方で、推進項目 10 の R5 世論調査のポイントが減少しているのは疑問である。評価者である私自身は子育て中であるが、推進項目 10 については多摩市への不満はなく、中央公園でパークライフショーが開催されるなど地域交流できるイベントが多くあること、多摩市主催の講演会では保育を利用できることなど、年々安心して過ごしやすく進化してくれているように感じている。世論調査の数値も大事であるが、私のように多摩市の子どもへの支援を高く評価している人も多くいると思うので、そういう評価をきちんと拾い上げていく手法も検討していただきたい。

### 学識経験 者からの 提言

「永山フェスティバル」や「聖蹟桜ヶ丘地区四季折々のイベント」を含め、コロナ禍の 影響により今まで中止や縮小となっていた様々な事業が再開されたり、コロナ禍前とほぼ 同規模で開催されたりしていることは、関係者の努力により事業が着実に回復しているこ とを示すもので、評価したい。

その一方で、推進項目 10 の成果指標の調査での「子どもがのびのびと過ごし、学び、成長できるまちであるか」の設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合は向上していない。これに対して、パルテノン多摩にオープンした「こどもひろばOLIVE」の利用者が大幅に増加したり、子育て支援にかかる諸事業において質の向上が図られたりしていることを考えると、施策・事業の内容や成果が一般に理解されていないことが推察される。こうしたことから、子どもや子育てにかかる施策・事業の周知や内容の理解促進に努めることが期待される。

目指す方向4として「学びあいと協働でかがやくまち」が掲げられているが、「学びあい」や「協働」は事実上の行為であり、統計的に把握するのが難しい。そうした事情を踏まえると、指標とは別に、市民や関係者の声を集めて公開することやそのデータを視覚的に表現するなど、協働の成果が可視化できるような「手法」を検討することが望ましい。

※出典:第38回(R1)、第39回(R3)、第40回(R5) ※前回比で上昇・下降率10%以上を「✓」「丶」で表示

### 【コラム】学びの中で育まれる持続可能な未来への一歩 ②

### ~ TAMAサスティナブル・アワードに期待 ~

環境に対する一人ひとりの意識啓発・行動につなげることを目的に、令和4年度からTAMAサスティナブル・アワードが開催されています。

「持続可能なライフスタイル」や「環境に やさしい取組み」を実践している地域や学 校、企業などを表彰し、その取組みが周知さ れ、多くの人に共感していただくことで人々 の行動変容につなげていくものです。



< TAMAサスティナブル・アワード 2023 受賞団体の皆さん >

初めて開催した令和4年度は、14団体から応募があり、部門ごとに4つの受賞団体が選ばれました。どの団体も、持続可能な社会の実現に向けた取組みであるとともに、活動のなかに学びと楽しさ、そして自慢できる街、シビックプライドが育まれる取組みばかりでした。特に市民団体では、生物多様性保全部門でグリーンボランティア森木会が、受賞されました。雑木林を維持する為に緑地での樹木の剪定や下草刈りなどの保全活動を行うとともに、次の世代を育てるためのグリーンボランティア講習会を実施し、これまでに多くの修了生を育ててきたことが高く評価され、表彰されました。

令和5年度は部門ごとに6つの受賞団体が決定し、令和4年度同様、森や里山をテーマとした団体のほか、清掃活動やマイクロプラスチック問題、再生エネルギーへの挑戦など多岐に渡る取組みが選ばれました。特に市民団体では、生物多様性保全部門で、多摩市水辺の楽校運営協議会が受賞されました。川を活動の場として、子どもたちに川辺の環境や川について楽しみながら学び、体験し知ってもらうことで、人と環境への関わりについて理解を深める取組みが高く評価されました。

この2年間に受賞された 10 団体は、環境問題を背景に、問題意識を持ち、学び、活動し、 仲間とともに成長していく、といった共通する部分がありました。受賞された皆さんは、ま さに生涯学習活動の目的である「課題を乗り越え、自らの可能性を広げる」ことを体現して います。

これらの生涯学習が根底にある活動が、まちの環境を保ち、人々に認知されていくことは、 生涯学習の「学習プロセス」を応援する点から有意義なことです。このような授賞式により、 すぐれた取組みを評価し表彰することは、その業績が広く知られるとともに、受賞された団 体の意欲向上となり、様々な団体の活性化にも影響を及ぼしていきます。

サスティナブル・アワードは、生涯学習の推進にとっても、効果的な取組みです。街の維持につながる活動に興味を持ち楽しみながら行うことで環境への人々の意識が高まるとともに生涯学習を通して成長した将来のリーダーが持続可能なまちを築いていくことを期待します。



3 内部評価

# 第4次多摩市生涯学習推進計画令和4年度内部評価総評

第4次多摩市生涯学習推進計画は、令和3年度からスタートし、計画期間の2年が過ぎました。昨年度は初めての内部評価の年であり、評価方法について試行錯誤の中での実施となり、生涯学習推進本部において様々な議論が交わされたほか、学びあい育ちあい審議会からも多くの意見が寄せられました。今年度の評価は、昨年度に寄せられた意見を参考に調査票や書式の一部見直しを行い、より、わかりやすい評価としました。

### 【令和4年度の振り返り】

令和4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が続いていましたが、緊急事態宣言やまん延防止措置が発令されなかったことから、これまで中止としていた各イベントや事業が徐々に再開されはじめました。依然として新型コロナウイルスの影響を受けている事業もありますが、これまでの経験を活かし、人数の制限や時間の短縮、事業数を絞るなど、様々な工夫をすることで、市民への情報発信や学習機会、学習の場の提供が継続されました。

一方、リアル(対面)での催しやイベントが可能となったことから、これまではオンラインで実施していた事業の多くが会場開催に切り替えられました。その動きに伴い、動画配信が減少し、指標にしている参加者数も減少してしまう傾向がありました。コロナ禍で動画配信の活用が浸透してきたことにより、情報発信やイベントなどの場面で実施方法に選択肢が増えたことは、多くの情報を市民にわかりやすく伝えることやイベントへのアクセスが容易になるなど、様々なメリットがありました。一方、リアル(対面)での意思疎通や対話は、より深いコミュニケーションが取れることやリアル(対面)での学習環境では理解が深まるメリットがあります。そうしたことから、リアル(対面)とオンライン、それぞれを場面に応じて適切に使い分けることが、今後の課題となっていくと思われます。

昨年度の市民の生涯学習活動支援に向けた大きな出来事としては、新たな生涯学習のための公共施設として、「多摩市市民活動・交流センター」が開設したことです。この施設が整備されたことで、これまで学校跡地を暫定活用していた団体が、文化・レクリエーション・スポーツなどの活動を安心して継続できるようになっただけでなく、新たな利用団体も目標を上回る登録がありました。今後、団体同士での交流が生まれ、様々な形に発展する可能性のある市民活動の場として、大いに期待したいところです。

### 【指標による視点から】

成果指標の増加がみられた事業としては、個別施策「**⑩多世代交流の場づくりの推進**」における、市民活動や交流の場として開館した「多摩市市民活動・交流センター」や、コロナ禍で中止していたが再開できた「永山フェスティバル」などの事業があげられます。また、多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会の準備を進め、代表者会議の開催まで到達した「多摩市版地域包括ケアシステム」も成果の増加がみられました。施設数が減ったために成果が減っている「学校跡地施設」を除けば、多世代交流の場づくりの推進を図ることができました。

また、個別施策「⑦地域団体との連携」では、これまで「地域ふれあいフォーラム TAMA」として実施してきた事業が、「VITA ふれあいまつり」として新たな形で再開され、地域で活動する市民団体のネットワーク化の促進が図られました。個別施策「⑪ボランティアセンターの充実」においては、「ボランティアセンター」のリニューアルやこれまで閉じていた施設の再開により、ボランティア団体などの活動が増え利用者の増加が見られました。これらの施策については、前年度より成果が向上し、連携や充実を図ることができました。

成果指標の減少が見られた事業としては、個別施策「**⑤オンライン・通信教育での学習サポート」**では、自主防災組織において実際の防災訓練が再開されはじめたことから、自治会・管理組合への「防災に関する DVD 等の無料貸出」の貸出数が減少となっています。また、個別施策「**②ライフスタイルの変化に対応した学習の情報提供」**における「ライフウェルネス教材」では、老いを学ぶために紙芝居形式の教材を市民が借りて複数の高齢者に読み聞かせる事業であるため、新型コロナウイルスの影響で市民が慎重に行動していると考えられ、教材の活用がされませんでした。

### 【共通する課題】

令和4年度は、新型コロナウイルスが収束に近づく兆しが感じられる中、多くの事業で成果の向上が見られる結果となっています。そして、生涯学習を取り巻く状況は改善されつつあり、「学びあいがつむぐ"健幸"なまち」に一歩近づいた1年であったといえます。

一方、今後は、平時に戻っていくことから、数年後には指標の伸びが鈍化してくることが予想されます。そうしたことから、今回の結果に満足せず、事業実施に当たっては、常に工夫を続け、成果を向上させていくことが課題と考えます。

学びあい育ちあい審議会の委員からは、高校生や大学生が生涯学習に参加しやすい環境づくりへの取組み強化について言及があり、今後の課題として受け止めました。

### 【今後に向けて】

内部評価で対象としている122の関連事業(再掲含む)は、目指している方向が、福祉や子育て、街づくり、地域活性化など多種多様であり、生涯学習の要素を含みつつも、それぞれの事業の目的があります。各課が事業を実施するにあたり、本来の事業の目的とともに、生涯学習の視点を常に意識していくことが、生涯学習をさらに推進していくものと考えます。

今後、前段の課題解決に取り組むとともに、各所管課が生涯学習の意義を認識して事業を実施し、引き続き、市民の生涯学習活動のプロセス支援や多様なサポートをしていくことで、市民の生涯学習活動を、さらに推進していきます。

### ~ 付記 ~

現在の内部評価は、アウトプットと初期アウトカムの指標および事業実績の記述内容により行っています。指標は数値で示されることから、定量的であり、成果や進捗を一定程度、明確に評価することができます。しかし、事業実績に関しては、定性的な内容のウエイトが高く、主観的な要素や質的な側面が多く含まれます。そのため、記述内容に関しては、客観性を持ちつつ、わかりやすく評価できるよう検討し、実効性のある評価とすることで効果的な進行管理を実現していくことが重要であると考えます。

# 第4次多摩市生涯学習推進計画 ~令和4年度 実績と考察

### 推進項目1「広報·情報提供」

|多様な興味・関心に応じた生涯学習活動についての情報を、多様な媒体を通じて提供します。また、各種団体の活動について、情報 |誌やインターネットなどを通じて紹介し、活動の活性化をサポートします。

### 個別施策① SNS等を活用した学習情報の共有・発信

			_	
アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①多摩市公式Twitter	$\rightarrow$	①集計不可/2339	$\rightarrow$	①5651/5102 ↑ 集計不可/10974
①多摩市公式Instagram	$\rightarrow$	①62∕106 ↓	$\rightarrow$	①1552/1291 ↑ 5871/10126 ↓
②市民活動情報検索サイト	$\rightarrow$	②364/367 ↓ 17371/14116 ↑	$\rightarrow$	②指標なし
③公民館通信	$\rightarrow$	③12000∕16000 ↓	$\rightarrow$	③12000∕16000 ↓
④地域デビュー手引書	$\rightarrow$	<b>4</b> 351 / 351 →	$\rightarrow$	④指標なし
⑤政策情報誌	$\rightarrow$	⑤79000∕80000 ↓	$\rightarrow$	⑤74070∕74363 ↓
⑥たま広報	$\rightarrow$	<b>⑥</b> 79450∕79300 ↑	$\rightarrow$	<b>⑥</b> 76747∕76362 ↑
⑦YouTube多摩市公式チャンネル	$\rightarrow$	⑦118∕227 ↓	$\rightarrow$	⑦227925/246695 ↓ 3934/2797 ↑
⑧農産物応援サイト「agri agri」	$\rightarrow$	<b>®128</b> ∕248 ↓	$\rightarrow$	<b>8</b> 49787∕62785 ↓
⑨多摩市LINE公式アカウント	$\rightarrow$	926359 ∕ 22353 ↑	$\rightarrow$	<pre>916893/7196 ↑</pre>
⑩ごみ分別アプリ「さんあ~る」	$\rightarrow$	⑩11∕15 ↓	$\rightarrow$	⑩4051∕3826 ↑

指標A:①発信数②登録団体数、閲覧数③発行部数④登録団体数⑤⑥発行部数⑦投稿動画数(限定公開含む)⑧⑨⑩情報発信数指標B:①フォロワー数、いいね!数③⑤⑥受取数⑦視聴回数、チャンネル登録者数⑧閲覧数⑨友だち登録者数⑩ダウンロード数

### 事 業 実 績

- ①Twitterについては仕様変更により、発信数の集計機能が消失し、集計が困難になった(この事業についてはいいね・フォロワーの数はアウトカムではないとの意見あり)。
- ②新型コロナウイルスの影響により団体の活動低下の懸念がある一方、市内活動への問い合わせが増加する等、活動意欲の高まりがあった。そのためか、登録団体数も増加し、閲覧数は3,000回近く増加した。
- ③年度を通して発行し、公共施設や関係機関等に配布することができたが、新型コロナウイルスの影響もあり発行部数が年々減少している。
- ④市民活動情報検索サイトとの統合に向けて、委託業者との調整・検討を行った。
- ⑤市の重要施策である本庁舎の建替えについて、市内全戸配布により効果的にPRできた。
- ⑥世帯数の増加に伴い、発行部数が増加した(この事業全体のアウトカムを担当で明らかにするのは困難であり、本来は「測定なし」とするのが妥当ではないかとの意見あり)。
- ⑦コロナ禍での「児童館事業の代替としての動画公開」が多くを占めていた時期からの転換と、集合研修の制限がなくなり、動画研修が減少したことから、動画の公開数が減少した。ただし、動画編集専用に購入した端末の稼働率は高く、動画を活用した広報は庁内に広がりつつある(この事業全体のアウトカムを担当で明らかにするのは困難であり、本来は「測定なし」とするのが妥当ではないかとの意見あり)。
- ⑧12月より新たなウェブサイトに移行、その前後については移行作業などの影響により投稿数がかなり減少した。
- ⑨令和4年度は学校連絡網の機能を公式LINEに実装したことで、友だち登録者数が倍増した。
- ⑩令和2,3年度については新型コロナウイルス関連によるごみ出し情報を発信していたが、令和4年度については新型コロナウイルス関連の周知が行われなかったため、減少している。

### 個別施策② ライフスタイルの変化に対応した学習の情報提供

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①地域デビュー手引書	$\rightarrow$	①351/351 →	$\rightarrow$	①指標なし
②政策情報誌	$\rightarrow$	②79000∕80000 ↓	$\rightarrow$	②74070∕74363 ↓
③ライフウェルネス教材	$\rightarrow$	③0∕0 →	$\rightarrow$	③0∕8 ↓
④健幸Spot	$\rightarrow$	<b>(</b> 4)6 ∕ 6 →	$\rightarrow$	<b>4</b> 4570∕2380 ↑
⑤for 40	$\rightarrow$	⑤1891∕1829 ↑	$\rightarrow$	⑤90. 9∕90. 3 ↑
⑥パルテノン多摩市民舞台芸術学校	$\rightarrow$	<b>⑥</b> 5∕4 ↑	$\rightarrow$	<b>⑥</b> 461∕455 ↑

指標A:①登録団体数②発行頻度、発行部数③作成部数④配置数⑤発行頻度、送付部数⑥講座数

指標B:②受取数③貸出数④利用数⑥参加者数

⑤読者アンケート回答者のうち、興味を持った記事の内容について、実際に生活を見直したり行動しようと思う、ややそう思うと回答した割合

### 事業実績

①市民活動情報検索サイトとの統合に向けて、委託業者との調整・検討を行った。

- ②市の重要施策である本庁舎の建替えについて、市内全戸配布により効果的にPRできた。
- ③新型コロナウイルスの影響により、市民活動が制限された。教材は紙芝居形式で、複数の人にわかりやすく読みきかせる媒体だったため、活用を促進できる状況ではなかった。
- ④新型コロナウイルスの影響により、利用者数が落ち込んだが、少しずつ戻りつつある。
- ⑤アンケート回答から、おおむね狙い通りの意識変化を生んでいるものと考える。
- ◎フロナ禍の中での実施ではあったが、第一線で活躍する講師らを招いた今事業は、好評であるとともに充足感、達成感に訴える方が多かった。

### 推進項目1の事業実績の考察

※指標の推移

依然として新型コロナウイルスの影響を受けている事業がある一方、平時に戻りつつある事業もあり、各事業工夫しながら情報発信・情報提供が行われていた。「ライフウェルネス教材」のように教材の活用が促進できる状況にはなかった事業もあったが、「健幸Spot」のように少しずつ利用者数が戻りつつある事業もあった。

アウト 初期アウト プット カム

「YouTube多摩市公式チャンネル」では、コロナ禍での「児童館事業の代替としての動画公開」が多くを占めていた時期からの転換と、集合研修の制限がなくなり、動画研修が減少したことから、動画の公開数が減少している。一方、動画編集専用端末の稼働率は高く、動画を活用した広報は庁内に浸透しつつあるといえる。今後は、オンラインの数値だけ見るのではなくリアルとの両面から見ていく必要がある。また、「公民館通信」については、新型コロナウイルスの影響もあり、発行部数が年々減少しているが、年度を通して発行され、公共施設や関係機関等に配布され

減少増加

※指標の推移	増加	維持	減少	増一減
アウトプット	5	4	8	-3
初期アウトカム	9	0	7	2

### 推進項目2「相談」

地域での問題や自身の悩み事などを気軽に相談でき、生涯学習活動への第一歩をふみだせるサポートを、関係団体等と連携しながら行います。

### 個別施策③ 生活課題等の相談・支援体制の強化

	_			
アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①多摩市版地域包括ケアシステム	$\rightarrow$	①指標なし	$\rightarrow$	(1)1∕0 ↑
②TAMA女性センター相談事業	$\rightarrow$	②3/3 →	$\rightarrow$	②449∕476 ↓
③人権・身の上相談	$\rightarrow$	③132∕60 ↑	$\rightarrow$	③34∕17 ↑
④地域包括支援センター	$\rightarrow$	<b>4</b> 6∕6 →	$\rightarrow$	<b>4</b> 43378∕42855 ↑
⑤しごと・くらしサポートステーション (生活困窮者自立相談)	$\rightarrow$	⑤4∕4 →	$\rightarrow$	⑤253∕382 ↓

指標A:②事業数(相談種類)③事業数(相談枠数)④施設数⑤事業数(相談枠数)

指標B:①会議開催数(多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会)②相談数③相談件数④⑤相談数

### 事業実績

①多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会の準備会については予定通り開催を行い、12月には要綱設置、3月には代表者会議、エリア別情報交換会を行った。重層的 支援体制整備事業実施計画の検討、地域福祉コーディネーターとの連携や地域課題について共有を図った。アウトカムの1回は代表者会議の開催回数である。 ②3つの相談事業において、相談者に寄り添い、関係機関と連携しながらエンパワーメントを行うことができた。

③新型コロナウイルスの影響による休止等もなく通常どおり実施した。昨年度は新型コロナウイルスの影響による休止等もなく通常どおり実施した。令和2年度、令和3年度と比較して、実施枠に対する相談件数の割合に大きな変化はなかった。

④6か所の地域包括支援センターと基幹型が連携し、市民へ相談内容に則した様々な情報提供と支援を実施した。高齢化率の上昇に伴って相談件数も増加している。 ⑤令和2・3年度はコロナ禍により相談件数が急増したが、令和4年度はコロナ禍以前の件数に戻りつつあった。

### 個別施策④ 相談の場の充実

	_			
アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①福祉なんでも相談	$\rightarrow$	①9/10 ↓	$\rightarrow$	①62∕59 ↑
②ふれあいいきいきサロン	$\rightarrow$	②106∕104 ↑	$\rightarrow$	②32283∕21837 ↑
③多摩市立市民活動・交流センター	$\rightarrow$	③325∕0 ↑	$\rightarrow$	③113758 ∕ 0 ↑
比据 4 . 4 . 4 . 4 . 4 . 4 . 4 . 4 . 4 . 4				

指標A:①②実施箇所数③登録団体数 指標B:①相談数②③利用者数

### 事業実績

①令和4年度は、連光寺福祉館のリニューアルにより、同地区では開催できなかった。令和4年度の主な相談内容は、これまでも多かった、介護保険等の制度に関すること、通いの場や、生活支援の不安に関するものが多かった。その他にも、近隣や知人の認知症が心配、死後事務など権利擁護に関係することなどの相談も徐々に増えてきている印象であった。団塊の世代が後期高齢者に移行し、地域では、終活などについてのニーズも高い。
②コロナ禍の影響で、活動休止、解散するサロンがある中、今までサロンがなかった既存地区(和田・乞田)などでも新規サロンが立ち上がり、前年度の登録サロン数を

②コロナ禍の影響で、活動休止、解散するサロンがある中、今までサロンがなかった既存地区(和田・乞田)などでも新規サロンが立ち上がり、前年度の登録サロン数を上回った。これは、コロナ禍で「通いの場」の重要性が再確認されたからであると考える。また、令和4年度は、都営団地からの移転などが、諏訪地区や中沢地区であり、 移転先でのサロン活動を立ち上げ、住民間での新たなコミュニティづくりを推進することができた。

③令和4年4月に施設が開館し、たま広報やオープニングイベントなどを通して周知を図った。団体登録数については目標数である200を大きく上回ることができた。

### 推進項目2の事業実績の考察

### ※指標の推移

「ふれあいいきいきサロン」の新規立ち上げや「多摩市立市民活動・交流センター」の開館などで相談の場づくりを広げられた。「ふれあいいきいきサロン」では、新たなサロンが立ち上がり、コミュニティづくりが推進された。新たにオープンした「多摩市市民活動・交流センター」では、市民活動の相談や活動へつなげるための場として、期待の持てる施設である。

「多摩市版地域包括ケアシステム」においては、多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会によって相談窓口やサポート体制づくりが強化された。多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会は、昨年、準備会が開催され、3月には代表者会議・エリア別情報交換会が行われ、生活課題等の相談・支援体制の強化が推進された。

アウト 初期アウト プット カム

増加増加

※指標の推移	増加	維持	減少	増一減
アウトプット	3	3	1	2
初期アウトカム	6	0	2	4

### 推進項目3 「居場所・場づくり」

生涯学習活動を行うための公的施設の充実だけでなく、情報通信技術をはじめ、市内の多様な資源を活用しながら、誰もが気軽に 集える居場所や場づくりを進めます。

### 個別施策⑤ 居場所のネットワーク化

			_	
アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①地域子育て支援拠点だより「わくわく通信」	$\rightarrow$	①17/17 →	$\rightarrow$	①指標なし
②多摩市通いの場マップ	$\rightarrow$	②0/0 →	$\rightarrow$	②指標なし
③多摩市版地域包括ケアシステム	$\rightarrow$	③指標なし	$\rightarrow$	③1 ∕ 0 ↑
④ふれあいいきいきサロン	$\rightarrow$	<b>④</b> 106∕104 ↑	$\rightarrow$	<b>④</b> 32283∕21837 ↑
⑤子ども食堂・誰でも食堂の紹介	$\rightarrow$	⑤指標なし	$\rightarrow$	⑤2984∕2484 ↑

指標A:①配布場所数②発行部数④事業数

指標B:③会議開催数(多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会)④利用者数⑤閲覧数

①2か月に1回の定期発行で情報発信をしている。令和4年3月、パルテノン多摩4階に新たに「こどもひろばOLIVE」もオープンし、各地域で情報発信を行った。

②令和4年度は更新せず。令和5年度に内容を更新する計画となっている。 ③多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会の準備会については予定通り開催を行い、12月には要綱設置、3月には代表者会議、エリア別情報交換会を行った。重層的 支援体制整備事業実施計画の検討、地域福祉コーディネーターとの連携や地域課題について共有を図った。アウトカムの1回は代表者会議の開催回数である。 ④コロナ禍の影響で、活動休止、解散するサロンがある中、今までサロンがなかった既存地区(和田・乞田)などでも新規サロンが立ち上がり、前年度の登録サロン数を 上回った。これは、コロナ禍で「通いの場」の重要性が再確認されたからであると考える。また、令和4年度は、都営団地からの移転などが、諏訪地区や中沢地区であり、 移転先でのサロン活動を立ち上げ、住民間での新たなコミュニティづくりを推進することができた。 ⑤新型コロナウイルスの感染拡大および物価高騰などの影響により、子ども食堂・誰でも食堂に関心を持つ市民が増えている。

### 個別施策⑥ 場の提供(ハード面のサポート)

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①コミュニティセンター・コミュニティ会館	$\rightarrow$	①11/10 ↑ 3393/3099 ↑	$\rightarrow$	①277378/182320 ↑ 23008/8910 ↑
②パルテノン多摩		②343∕0 ↑	$\rightarrow$	②418203∕0 ↑
③公民館(永山)	$\rightarrow$	③11121/10425 ↑ 337/323 ↑	$\rightarrow$	③74001∕51218 ↑
④公民館(関戸)	$\rightarrow$	<b>4</b> 10121∕8181 ↑ 338∕326 ↑	$\rightarrow$	<b>④</b> 57456∕26450 ↑
⑤図書館	$\rightarrow$	⑤8/8 → 355/356 ↓	$\rightarrow$	⑤42183∕45107 ↓
⑥多摩市立市民活動・交流センター	$\rightarrow$	⑥325∕0 ↑	$\rightarrow$	⑥113758∕0 ↑

|指標A:①施設数、開館日数(10館合計)②施設数、開館日数③④施設数(コマ数)、開館日数⑤施設数、開館日数⑥登録団体数

指標B:①利用者数、事業参加者数②③④来館者数⑤登録者数⑥来館者数(利用者数)

①令和4年度も新型コロナウイルスの影響で一部中止された事業があったものの、サークル活動や地域の活動でのコミュニティルームの利用は、コロナ禍前の状況に戻りつつあり、コミュニティセンター及びコミュニティ会館が持つ市民の居場所としての機能を回復しつつある。

②事業については、リニューアルオープン記念企画として、市内はもとより、市外への広報にも努めた。貸館については、内覧会の開催やDM案内(1,200件)などの取 組を行い、利用促進に努めた。

③新型コロナウイルスに対する臨時休館や開館時間の短縮を実施することなく開館することができた。施設の利用に際しては、必要な感染症対策を講じながら、人と人 との交流の場を提供することができた。

④新型コロナウイルスに対する臨時休館や開館時間の短縮を実施することなく開館することができた。また、施設改修工事による施設利用の制限も7月までで終了し た。施設の利用に際しては、必要な感染症対策を講じながら、人と人との交流の場を提供することができた。

⑤新型コロナウイルスの感染対策をとった上で、開館し誰もが気軽に学べ、資料を借ることができる環境を提供することができた。登録者数は、新規登録者及び、過去2 年間での貸出の実績がある登録者の合計としており、内訳として新規登録者は増えているが、継続利用している登録者が減少している。継続して利用してもらう取り組 みが必要である。

⑥令和4年4月に施設が開館し、たま広報やオープニングイベントなどを通して周知を図った。団体登録数については目標数である200を大きく上回ることができた。

### 推進項目3の事業実績の考察

※指標の推移

今まで「ふれあいいきいきサロン」がなかった地区での新規サロン立ち上げや、新たな施設の開館により、居場所づくりが推進された。 「ふれあいいきいきサロン」の数が増えたことで、居場所のネットワーク化を拡充することができた。また、「地域子育て支援拠点」として「こども ひろばOLIVE」がパルテノン多摩にオープンした。新たな施設として「多摩市市民活動・交流センター」が開館し、「学びや活動の場」を提供するこ とができたことは、今後の生涯学習の大きな柱となることが期待出来る。また、物価高騰などの社会環境の変化に伴い、今後、「子ども食堂・誰で も食堂」のニーズは上がっていくことが想定されるため、必要な人に情報が届くように周知を続けることが大切である。「図書館」の登録者数に ついては、新規登録者及び過去2年間での貸出の実績がある登録者を合計としている。内訳として新規登録者は増えているが、継続利用してい る登録者が減少しており、継続して利用してもらう取り組みが必要である。

初期アウト プット カム

増加 増加

※指標の推移	増加	維持	減少	増一減
アウトプット	9	3	1	8
初期アウトカム	9	0	1	8

### 推進項目4「地域活動・地域づくり」

地域で活動する団体と連携し、地域での活動をしたい人と、一緒に活動をして欲しい人とをつなぐ仕組みを充実します。

### 個別施策⑦ 地域団体との連携

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①(仮称)地域委員会構想	$\rightarrow$	①0/0 (準備中) →		①0/0 (準備中) →
②たすけあい有償活動	$\rightarrow$	②178/155 ↑	$\rightarrow$	②667∕648 ↑
③地域ふれあいフォーラム	$\rightarrow$	③1/中止 ↑	$\rightarrow$	③2000∕中止 ↑
④地域福祉推進委員会	$\rightarrow$	<b>④10</b> ∕10 →	$\rightarrow$	<b>④</b> 52∕44 ↑ 981∕847 ↑ 1416∕1072 ↑
⑤自治会・管理組合活動の支援 (多摩市自治連合会)	$\rightarrow$	⑤9∕8 ↑	$\rightarrow$	⑤650∕588 ↑
⑥多摩市立市民活動・交流センター	$\rightarrow$	⑥325/0 ↑	$\rightarrow$	<b>⑥</b> 113758∕0 ↑
⑦多摩市版地域包括ケアシステム	$\rightarrow$	⑦指標なし	$\rightarrow$	⑦1/0 ↑

指標A:①事業数②登録者数③事業数④実施箇所数⑤事業数⑥登録団体数

指標B:①参加者数②利用者数③参加者数④開催数、参加団体数、参加者数⑤参加団体数

⑥参加者数⑦会議開催数(多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会)

### 事業実績

①多摩市自治推進委員会の中で4つのモデルエリアにおける取組・検討内容について協議し、令和5年度から試行実施する「地域担当職員」と中間支援組織との整理等を行い、具体的な協働のしくみづくりに向けて議論を進めた。

②協力員説明会は、貝取、鶴牧地区で開催した。その他、たすけあい有償活動の案内と協力員募集のチラシを作成し、協力員の少ない地域に個別ポスティングや関係機関に配布するなど広報に力を入れた。結果、新規に協力員20人が登録し、目標の2倍の協力員を確保でき、また関係機関から利用者の紹介もあり、サービスの充実につなげることができた。

③これまで「地域ふれあいフォーラムTAMA」として実施してきたが、令和4年度より「VITAふれあいまつり」として実施。地域で活動する市民団体のネットワーク化を促進するとともに、活動する新たな人材を見出し、市民のつながりを深め、活動が広まるような場となった。

④多摩市自治推進委員会の中で4つのモデルエリアにおける取組・検討内容について協議し、令和5年度から試行実施する「地域担当職員」と中間支援組織との整理等 を行い、具体的な協働のしくみづくりに向けて議論を進めた。

⑤新型コロナウイルスの影響が落ち着いてきたことから、中止してきた事業についても、一般的な感染予防を講じて実施することが出来、ここ数年の中では参加団体も 多くなった。

⑥令和4年4月に施設が開館し、たま広報やオープニングイベントなどを通して周知を図った。団体登録数については目標数である200を大きく上回ることができた。 ⑦多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会の準備会については予定通り開催を行い、12月には要綱設置、3月には代表者会議、エリア別情報交換会を行った。重層的 支援体制整備事業実施計画の検討、地域福祉コーディネーターとの連携や地域課題について共有を図った。アウトカムの1回は代表者会議の開催回数である。

### 個別施策⑧ 地域活動の担い手育成

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①わがまち学習講座	$\rightarrow$	①1∕0 ↑	$\rightarrow$	(1)54∕0 ↑
②地域課題講座	$\rightarrow$	②3/5 ↓	$\rightarrow$	②61∕109 ↓
③ベルブぜみ	$\rightarrow$	③2/2 →	$\rightarrow$	③230∕145 ↑
④(仮称)地域委員会構想	$\rightarrow$	④0/0 (準備中) →	$\rightarrow$	(④0/0 (準備中) →
⑤健幸まちづくりシンポジウム	$\rightarrow$	⑤1/1 →	$\rightarrow$	⑤72(会場)/398(動画配信) ↓
⑥公園・道路のアダプト制度		⑥121∕114 ↑	$\rightarrow$	<b>⑥</b> 2955∕2901 ↑
⑦グリーンボランティア活動	$\rightarrow$	⑦14/14 →	$\rightarrow$	⑦3095∕3215 ↓
⑧市民企画講座	$\rightarrow$	<b>®</b> 11∕14 ↓	$\rightarrow$	8678∕271 ↑
⑨地域貢献講座	$\rightarrow$	90∕3 ↓	$\rightarrow$	90∕67 ↓

指標A:①②③講座数④事業数⑤開催回数⑥⑦事業数⑧⑨講座数

指標B:①~④参加者数⑤視聴回数⑥~⑨参加者数

### 事業実績

- ①企画課、公民館、文化・生涯学習推進課の3課で連携し、まちづくりシミュレーションゲームを市民と一緒に作りながら、まちの課題や地域の問題点について考える講座を開催することができた。
- ②市内のコミュニティセンター3館と共催による事業を両館で3回実施した。高齢者を対象とした、身体を動かす技術を学ぶ講座、子どもたちの調理体験、大栗川を中心に市内を歩きながら歴史を学ぶ講座などを実施し、参加者間の交流や興味関心に応じた学習機会の提供につながった。

③学びが実践的な地域活動につながるよう「聞き書きボランティア入門講座」を開催し、昨年の講座終了後に発足したアフターグループも参加した。

- ④多摩市自治推進委員会の中で4つのモデルエリアにおける取組・検討内容について協議し、令和5年度から試行実施する「地域担当職員」と中間支援組織との整理等 を行い、具体的な協働のしくみづくりに向けて議論を進めた。
- ⑤子ども家庭支援センターと連携し、昨今注目されるヤングケアラーへの支援をテーマとしたシンポジウムを実施し、多摩市におけるヤングケアラー支援体制の構築にむけ、気づきを共有した。講師の都合により、動画の配信はできなかったが、庁内外の相談支援機関や教育機関等から参加があり、課題を共有できた。

⑥公園、道路合わせて6団体が新規加入しており、HPやたま広報で効果的に制度をPRできた。

⑦講師もボランティアが中心だが、自らの技術、知識を習得するため頑張っており、高度な知識と技術については大学の先生、農協や消防署から講師を招くなどして対応した。新型コロナウイルスの影響は避けられなかったが、受講生が極端に減ることもなく、ボランティア団体の活動は比較的活発で、講座にも協力してくれた。

⑧子育て関係、女性のライフビジョン、文化教養、障がい者理解、介護問題など多岐にわたり行われた。講座終了後も学びの継続などが報告された。 ◎永山公民館「ベルブザみ」の関き書きボランティアの講座を地域貢献講座としても位置付けていたため、会和4年度は関京公民館単独の事業としては実施した。

⑨永山公民館「ベルブぜみ」の聞き書きボランティアの講座を地域貢献講座としても位置付けていたため、令和4年度は関戸公民館単独の事業としては実施しなかった。

# 推進項目4の事業実績の考察

※指標の推移

中止していたイベントを開催し地域団体との連携が図られたことや、中止していた講座が再開され、地域活動の担い手育成も行われた。「地域ふれあいフォーラム」においては、「VITAふれあいまつり」として新たな形で再開され、新たな人材発掘や地域で活動する市民団体のネットワーク化が促進された。また、「わがまち学習講座」を開催し、まちの課題や地域の問題点について市民と考える機会を提供することや、「市民企画講座」では講座終了後も学びの継続などが報告されるなど、地域活動の担い手の育成が図られた。「(仮称)地域委員会構想」では、令和5年度から試行実施する「地域担当職員」と中間支援組織との整理等を行い、具体的な協働のしくみづくりに向けて議論が行われ、地域づくりが前進した。

アウト 初期アウト プット カム

増加増加

※指標の推移	増加	維持	減少	増一減
アウトプット	6	4	3	3
初期アウトカム	11	2	5	6

### 推進項目5「学習の機会づくり」

地域の様々な活動や人材等と連携し、地域の活動や多世代と関わり、学べる機会づくりを進めます。

### 個別施策⑨ 市民企画(提案)型講座・事業の拡充

	_		_	
アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①出前講座	$\rightarrow$	①1∕0 ↑	$\rightarrow$	(1)7∕0 ↑
②市民企画講座	$\rightarrow$	②11/14 ↓	$\rightarrow$	②678∕271 ↑
③出前講座·講師派遣制度	$\rightarrow$	③3/3 →	$\rightarrow$	③125∕159 ↓

指標A:①~③講座数 指標B:①~③参加者数

①新型コロナウィルスによる感染拡大が落ち着いてきたこともあり、今まで新型コロナウィルスの感染拡大の影響で活動を休止していた団体からの申し出が1件あっ

た。 ②子育て関係、女性のライフビジョン、文化教養、障がい者理解、介護問題など多岐にわたり行われた。講座終了後も学びの継続などが報告された。 ③関係者への事業の周知は引き続き行うものの、新型コロナウイルスの影響もあり、自治会や学校からの依頼が減少したことによる開催回数の低迷は依然として解消 されなかった。

### 個別施策⑩ 多世代交流の場づくりの推進

	_			
アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①多摩市立市民活動・交流センター	$\rightarrow$	①325∕0 ↑	$\rightarrow$	①113758∕0 ↑
②コミュニティセンター・コミュニティ会館	$\rightarrow$	②11/10 ↑ 3393/3099 ↑	$\rightarrow$	②277378/182320 ↑ 23008/8190 ↑
③多摩市版地域包括ケアシステム	$\rightarrow$	③指標なし	$\rightarrow$	③1∕0 ↑
④公民館(永山)	$\rightarrow$	<b>④</b> 11121∕10425 ↑ 337∕323 ↑	$\rightarrow$	<b>④</b> 74001∕51218 ↑
⑤公民館(関戸)	$\rightarrow$	⑤10121/8181 ↑ 338/326 ↑	$\rightarrow$	⑤57456∕26450 ↑
⑥学校跡地の市民開放	$\rightarrow$	⑥2/5 ↓ 359/359 →	$\rightarrow$	<b>⑥</b> 20491∕76865 ↓
⑦青少年協議会地区委員会の活動	$\rightarrow$	⑦162∕133 ↑	$\rightarrow$	⑦20564∕12288 ↑
⑧永山フェスティバル	$\rightarrow$	<b>®</b> 1∕1 →	$\rightarrow$	⑧12293(参加者数)/37(写真) ↑
<b>⑨学校開放</b>	$\rightarrow$	926/26 →	$\rightarrow$	9291451/197577 ↑

|指標A:①登録団体数②施設数、開館日数(10館合計)④⑤⑥施設数、開館日数⑦活動数⑧事業数⑨施設数

指標B:①参加者数②来館者数、事業参加者数③会議開催数(多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会)

④来館者数(貸出者数)⑤来館者数⑥来館者数(利用者数)⑦参加者数⑧写真展示数⑨使用者延べ人数

### 事業実績

①令和4年4月に施設が開館し、たま広報やオープニングイベントなどを通して周知を図った。団体登録数については目標数である200を大きく上回ることができた。

②令和4年度も新型コロナウイルスの影響で一部中止された事業があったものの、児童館との連携事業や子どもたちを対象とした世代間交流事業が多く実施され、コミュニティセンター及びコミュニティ会館が持つ多世代が交流する場としての機能を回復しつつある。 ③多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会の準備会については予定通り開催を行い、12月には要綱設置、3月には代表者会議、エリア別情報交換会を行った。重層的支援体制整備事業実施計画の検討、地域福祉コーディネーターとの連携や地域課題について共有を図った。アウトカムの1回は代表者会議の開催回数である。 ④新型コロナウイルストステスを活った。またである。 との交流の場を提供することができた。

⑤新型コロナウイルスに対する臨時休館や開館時間の短縮を実施することなく開館することができた。また、施設改修工事による施設利用の制限も7月までで終了した。施設の利用に際しては、必要な感染症対策を講じながら、人と人との交流の場を提供することができた。

⑥令和4年度は施設数が2となり、3施設減少したことから、来館者数(利用者数)が大幅に減少した。現状の2施設が有効に活用出来るよう利用者懇談会を行った。 ⑦コロナ禍の継続により、予定していた行事の急な変更や中止を余儀なくされたが、感染防止の対策を行い、令和3年度よりも多くの地域活動を行うことができた。 ⑧永山駅周辺の活性化と地域住民、市民団体等の交流促進や施設間同士の連携、元気な街づくりを目的に開催したが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、屋 外ステージ、飲食等模擬店の出店などの実施は見送った。

⑨コロナ禍で落ち込んでいた利用が、コロナ禍前に近い水準にまで回復してきている。

### 推進項目5の事業実績の考察

※指標の推移

「出前講座・講師派遣制度」においては新型コロナウイルスの影響もあり、自治会・学校からの依頼が減少している一方、「出前講座」では休止し ていた団体からの申し出があり、「市民企画講座」では講座終了後も学びの継続が報告された。また、多くの公共施設では、感染対策をしつつも、 コロナ禍前に近い水準で、開館することができていた。

「公民館」においては、新型コロナウイルスに対する臨時休館や開館時間を短縮せず開館することができた。「学校跡地の市民開放」において は、施設数が減少したことで来館者数が大幅に減少していた。「出前講座・講師派遣制度」においては、新型コロナウイルスの影響により外部から の依頼が減少したまま解消されないために減少している。一方、「学校開放」のようにコロナ禍で落ち込んでいた利用がコロナ禍前に近い水準に まで回復してきている事業もあった。

プット カム

増加

初期アウト

増加

※指標の推移	増加	維持	減少	増一減
アウトプット	9	3	2	7
初期アウトカム	11	0	2	9

### 推進項目6 「ボランティア・市民活動」

市民主体のボランティア活動や市民活動へのサポートを行うとともに、ボランティア活動などに参加したくなる仕組みづくりを進め ます。

### 個別施策⑪ ボランティアセンターの充実

アクティビティ(事業概要)	アウトプット	初期アウトカム
関連事業	指標A【令和4年度/令和3年度】	指標B【令和4年度/令和3年度】
①多摩ボランティア・市民活動支援センター	→ ①293/271 ↑	→ ①8358/4978 ↑

指標A:①開館日数

指標B:①来館者数(利用者数)

①ボランティアセンターのリニューアルにより、ボランティア団体の活動拠点となる活動室ができたことと、第1・3日曜日の開館を再開したことで、ボランティア団体な どの活動が増え、利用者の増加につながった。一方、コロナ禍により、ボランティアを受け入れ可能となる施設や団体が少なく、コーディネートできる活動が限られた が、子どもを支援する活動については広がりが見え、活動希望者をマッチングし、活動の定着を図ることができた。活動者同士をつなぎ、フードバンク団体の立ち上げを 支援することができた。また、市内の大学1校に定期的に出向き、出張相談を実施し、学生のボランティア活動をコーディネートした。

### 個別施策⑫ 市民活動やボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり

	_		_	
アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①接農ボランティア	$\rightarrow$	①9/21 ↓	$\rightarrow$	(1)4∕19 ↓
②にゃんともTAMAるボランティアポイント (介護予防ボランティアポイント)	$\rightarrow$	②指標なし	$\rightarrow$	②514/484 ↑ 77/72 ↑
③多摩ボランティア・市民活動支援センター	$\rightarrow$	③293∕271 ↑	$\rightarrow$	③8358∕4978 ↑
④生涯学習市民バンク	$\rightarrow$	④指標なし	$\rightarrow$	<b>4</b> 2/2 →
⑤多摩市立市民活動・交流センター	$\rightarrow$	⑤325 ∕ 0 ↑	$\rightarrow$	⑤113758∕0 ↑
⑥多摩市版地域包括ケアシステム	$\rightarrow$	6指標なし		<b>⑥</b> 1∕0 ↑
⑦公園・道路のアダプト制度	$\rightarrow$	⑦120∕114 ↑	$\rightarrow$	⑦2955∕2901 ↑
⑧グリーンボランティア活動	$\rightarrow$	<b>®14</b> ∕14 →	$\rightarrow$	83095/3215 ↓

指標A:①参加者数③開館日数⑤登録団体数⑦事業数⑧事業数(活動数)

指標B:①修了者数②登録者数、ポイント活用申請件数③来館者数(利用者数)④登録者数⑤利用者数

⑥会議開催数(多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会)⑦⑧参加者数

### 事 業 実 績

①援農ボランティアの人数は年々増えているが、受け入れ農家数に対してボランティア数が多くなってきたため、令和4年度は募集人数を絞った。

②少しずつではあったが、ボランティア受入休止が解除された。また、受入施設に児童館、社会福祉協議会を追加し、受入施設の拡大を図り、登録者数が増加した。ポイ

支援することができた。また、市内の大学1校に定期的に出向き、出張相談を実施し、学生のボランティア活動をコーディネートした。

④窓口での問合せが数件あり申請の手続きを案内したが、申請書の提出までに至らなかった。令和4年度の2件については、一般社団法人社会通信教育協会からの人 材の情報提供のみであった。

⑤令和4年4月に施設が開館し、たま広報やオープニングイベントなどを通して周知を図った。団体登録数については目標数である200を大きく上回ることができた。 ⑥多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会の準備会については予定通り開催を行い、12月には要綱設置、3月には代表者会議、エリア別情報交換会を行った。重層的 支援体制整備事業実施計画の検討、地域福祉コーディネーターとの連携や地域課題について共有を図った。アウトカムの1回は代表者会議の開催回数である。 ⑦公園、道路合わせて6団体が新規加入しており、HPやたま広報で効果的に制度をPRできた。

⑧講師もボランティアが中心だが、自らの技術、知識を習得するため頑張っており、高度な知識と技術については大学の先生、農協や消防署から講師を招くなどして対 応した。新型コロナウイルスの影響は避けられなかったが、受講生が極端に減ることもなく、ボランティア団体の活動は比較的活発で、講座にも協力してくれた。

### 推進項目6の事業実績の考察 ※指標の推移 ボランティア団体はコロナ禍の中でも継続して活動していた。 「多摩ボランティア・市民活動支援センター」においては、ボランティアセンターのリニューアルや今まで新型コロナウイルスの影響で閉じていた 施設を再開したことにより市民活動が増え、開館日数・来館者数が増加につながった。一方、援農ボランティアのように、受け入れ農家数に対し 初期アウト プット カム

てボランティア数が多くなってきたため、募集を絞った事業も見られる。 「グリーンボランティア活動」では、コロナ禍においても、講座の参加者に大きな落ち込みはなく、市民の興味を引くボランティア活動であると 考えられる。

増加 増加

※指標の推移 増加 維持 減少 増一減 アウトプット 4 1 初期アウトカム 7 2 1 5

# 推進項目7「大学・社会教育施設との連携」

大学や社会教育施設等との連携により、地域課題の解決など、多様なニーズに対応した気軽に学べる機会づくりと提供を目指しま す。

### 個別施策③ 市内大学とのネットワークの構築

	_			
アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①健幸まちづくりシンポジウム	$\rightarrow$	①1/1 →	$\rightarrow$	①72(会場)/398(視聴回数) ↓
②大学連携事業	$\rightarrow$	266∕55 ↑	$\rightarrow$	②指標なし

指標A:①事業数(イベント数)②事業数

指標B:①視聴回数

### 事業実績

①子ども家庭支援センターと連携し、昨今注目されるヤングケアラーへの支援をテーマとしたシンポジウムを実施し、多摩市におけるヤングケアラー支援体制の構築にむけ、気づきを共有した。講師の都合により、動画の配信はできなかったが、庁内外の相談支援機関や教育機関等から参加があり、課題を共有できた。 ②各所管部署のニーズと大学のシーズをマッチングさせる仕組みの試行を推進した。

### 個別施策⑭ 社会教育施設と大学機関の連携

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①関戸地球大学院	$\rightarrow$	(1)6/6 →	$\rightarrow$	①217/230 ↓

指標A:①事業数 指標B:①参加者数

事業実績 ①たま学びテラス事業(日野市との連携事業)では、会場受講及びオンライン受講を併用したことにより、市内外問わず幅広く市民の受講機会の提供ができた。

### 推進項目7の事業実績の考察

※指標の推移

新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきたことで、オンラインでの受講形式から会場での対面形式にきりかえる動きが見えてきた。 「健幸まちづくりシンポジウム」は、講師の都合で動画配信ができなかった為、参加者数は減少しているが、令和4年度からは会場にて開催することができ、リアル(対面)での学びの機会づくりが再開されている。また、「大学連携事業」では、事業数が令和元年の99事業から大きく減少し ていたが、令和3年度には55事業、令和4年度では66事業と回復しており、新型コロナウイルスの影響が緩和されたと考えられる。「関戸地球大学院」では、成果(初期アウトカム)は伸びていないが、講座の中の1つであるたま学びテラス事業では、会場受講及びオンライン受講を併用したこ とにより、市内外問わず幅広く受講機会が提供されていた。

アウト 初期アウト プット カム

減少 増加

※指標の推移	増加	維持	減少	増一減
アウトプット	1	2	0	1
初期アウトカム	0	0	2	-2

### 推進項目8「誰もが学べる環境づくり」

ライフスタイル、障害の有無、国籍、性別、経済状況などに関わらず、誰もが参加できる学習の環境・機会づくりを関係施設や団体、関 係部署等と連携を図りながら推進します。

### 個別施策(5) オンライン・通信教育での学習サポート

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①YouTube多摩市公式チャンネル	$\rightarrow$	①118∕227 ↓	$\rightarrow$	①227295/246695 ↓ 3934/2797 ↑
②防災に関するDVD等の無料貸出	$\rightarrow$	②72/72 →	$\rightarrow$	②13∕20 ↓
③日本語教室	$\rightarrow$	③1/1 →	$\rightarrow$	③2754∕2233 ↑

指標A:①投稿動画数(限定公開含む)②DVD本数③事業数 指標B:①視聴回数、チャンネル登録者数②貸出数③参加者数

### 事 業 実 績

①コロナ禍での「児童館事業の代替としての動画公開」が多くを占めていた時期からの転換と、集合研修の制限がなくなり、動画研修が減少したことから、動画の公開数 が減少した。ただし、動画編集専用に購入した端末の稼働率は高く、動画を活用した広報は庁内に広がりつつある(この事業全体のアウトカムを担当で明らかにするのは 困難であり、本来は「測定なし」とするのが妥当ではないかとの意見あり)。

②令和4年度では、自主防災組織の防災訓練が緩やかに回復してきたため、令和3年度と比較してDVDの貸出数は減少した。

③新型コロナウイルスへの対策として、令和2年度からオンラインによる参加を可能とした。令和4年度も延べ425人(令和3年度は延べ645人)の参加があった。新型 コロナウイルスの感染状況が改善傾向にあったこと等もあり、令和3年度より、オンラインによる参加者数は減少したと考えられる。

### 個別施策⑩ シチズンシップ学習の拡充

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①国際交流事業(国際理解講座等)	$\rightarrow$	①3/2 ↑	$\rightarrow$	①104∕55 ↑
②平和・人権課及びTAMA女性センターが実施する 関連講座・事業	$\rightarrow$	②24∕26 ↓	$\rightarrow$	②6865∕2891 ↑
③障がい者青年教室	$\rightarrow$	③1/1 →	$\rightarrow$	③142∕67 ↑
④子ども被爆地派遣事業(報告会)	$\rightarrow$	<b>④</b> 1∕1 →	$\rightarrow$	<b>4</b> 65∕57 ↑

指標A:①~④事業数 指標B:①~④参加者数

①多摩市国際交流センターの主催事業として、国際理解講座、国際理解授業を実施。令和3年度は新型コロナウイルスの影響により、国際理解授業はオンラインでの実施であったが令和4年度は対面で実施された。また、国際理解講座についても年間で計2回開催されたため、参加者数の増加につながった。

②人権啓発事業は、新型コロナウイルスの感染拡大に備え、展示形式を中心とし、事業数を減らすことなく実施した。参加者数については、市制50周年記念事業として 実施したハンドスタンプアートの制作・展示の参加者数が想定を大きく上回ったため、大幅な伸びとなった。男女平等参画推進の観点では、オンライン講座、パネル展示、映画上映など、様々な手法・場所で啓発を行うことができた。アットカムについて事業の参加者数は微減しているが、啓発事業において、「パネル展示」の割合を増やして いることが一因であり、不特定多数の人が見ることのできる「パネル展示」を増やすことにより、TAMA女性センターの認知度向上と啓発の裾野拡大を図った。 ③主に知的障がいを持つ青年たちを対象に、コロナ禍であったが、人数や時間を縮小するなど工夫し、年8回青年教室を開催した。青年たちが楽しみにしている創作活

動での作品は、「多摩市みんなの美術作品展」にも展示参加し、多くの方に活動を知っていただく機会となった。 ④令和4年度は現役派遣員に加え、過去に多摩市子ども被爆地派遣事業へ参加した歴代派遣員が事前活動から報告会までの全活動に参加した。成果報告会で歴代派遣

員からも平和のメッセージを送るという新たなプログラムを組んだことにより、来場者数が増えたと考える。

### 個別施策⑪ 様々な状況に応じた学習・生活のサポート

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①就労支援事業(多摩市就労ガイドブックの作成等)	$\rightarrow$	①700∕550 ↑	$\rightarrow$	<pre>①442/389 ↑</pre>
②日本語教室・外国語セミナー	$\rightarrow$	②2/2 →	$\rightarrow$	②2861∕2329 ↑
③障がい者スポーツ体験教室	$\rightarrow$	③10∕9 ↑	$\rightarrow$	③76∕78 ↓
④多摩市国際交流センター	$\rightarrow$	<b>4</b> 4∕3 ↑	$\rightarrow$	<b>4</b> 3816∕3396 ↑
⑤出前講座	$\rightarrow$	⑤1∕0 ↑		⑤7∕0 ↑
⑥「ハートフルオフィス」事業	$\rightarrow$	⑥1/1 →	$\rightarrow$	⑥0 ∕ 1 ↓

指標A:①発行部数②事業数③実施回数④事業数⑤講座数⑥事業数

指標B:①受取数②③参加者数④市民参加者数⑤参加者数⑥就労実績

### 事業実績

①掲載している施設や相談窓口に大きな変更を加えてはいないが、新たな情報を求めているというよりは就労関係機関の情報を求める方が毎年発生している。 ②3密を避け、パーテーションを活用するなど新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながら、外国人のための日本語教室を開催した。また多摩市国際交流センター 主催の外国語セミナーについても、前年同様に実施された。令和4年度は、新型コロナウイルスの感染状況が改善傾向にあったこと等もあり、日本語教室の延べ参加者 数が増え、全体の参加者数の増加につながった。

③主な対象が障がい者であり、市内障害福祉サービス事業所等に声掛けをして周知などをしていたが、新型コロナウイルスが収束しきるまでは参加協力が難しいとの声も多く、令和3年度と同等の実施状況となった。

④市内在住外国人への生活支援として、日本語教室および生活相談室を多摩市国際交流センターに委託して実施した。その他、庁内各課で使用する申請書や案内等の |文書の多言語翻訳も多摩市国際交流センターへ委託して実施した。多摩市国際交流センター主催の交流イベントについては、一部中止となったものもあったが、多くは 新型コロナウイルスの対策を講じた上で実施された。

⑤新型コロナウィルスによる感染拡大が落ち着いてきたこともあり、今まで新型コロナウィルスの感染拡大の影響で活動を休止していた団体からの申し出が1件あっ

⑥令和4年度は任用期間満了となる会計年度任用職員がいなかったため、一般企業等への就職実績がなかった。

### 推進項目8の事業実績の考察

※指標の推移

初期アウト

カム

アウト

プット

オンラインでの実施からリアル(対面)での実施へきりかえることができた事業がある中で、依然として新型コロナウイルスの影響を受けて実績 が減少している事業や実施状況が現状維持にとどまった事業もあった。

「日本語教室」では成果(初期アウトカム)は伸びており、新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かったこと等もあり、オンラインからリアル (対面)への移行が顕著であった。

「平和・人権課及びTAMA女性センターが実施する関連講座・事業」では、市制50周年記念事業として実施したハンドスタンプアートの制作・展 示の参加者数が想定を大きく上回り、成果(初期アウトカム)の大幅な増加となっていた。この大幅な増加要因は、市制50周年記念事業による特 例的なものであったが、今後も市民の関心と理解が広がる啓発事業が企画されることを期待したい。

増加 増加

「防災に関するDVD等の無料貸出」では、自主防災組織の防災訓練が再開されはじめたことにより、DVDの貸出数が減少していた。

※指標の推移	増加	維持	減少	増一減
アウトプット	5	6	2	3
初期アウトカム	10	0	4	6

### 推進項目9「市民協働の機会づくり」

市民協働の機会づくりに向けて、市民・民間・行政等が一体となって行う事業やイベントなどに対する一層のサポートを推進します。

### 個別施策® 市民・民間・行政が一体となった事業等の実施

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①永山フェスティバル	$\rightarrow$	①1/1 →	$\rightarrow$	①12293(参加者数)/37(写真) ↑
②グリーンボランティア活動	$\rightarrow$	②14/14 →		②3095/3215 ↓
③多摩センター地区四季折々のイベント	$\rightarrow$	③5/5 →	$\rightarrow$	③4686000∕3983000 ↑
④聖蹟桜ヶ丘地区四季折々のイベント	$\rightarrow$	④3/2 ↑		<b>4</b> 2939∕481 ↑
⑤商店街イベント	$\rightarrow$	⑤13∕9 ↑		⑤638115∕627760 ↑
⑥健幸まちづくりシンポジウム	$\rightarrow$	⑥1/1 →	$\rightarrow$	⑥72(会場)/398(視聴回数) ↓

指標A:①事業数②事業数(活動数)③④⑤⑥事業数(イベント数) 指標B:①写真展示数②参加者数③④⑤集客数⑥視聴回数

### 事業実績

①永山駅周辺の活性化と地域住民、市民団体等の交流促進や施設間同士の連携、元気な街づくりを目的に開催したが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、屋 外ステージ、飲食等模擬店の出店などの実施は見送った。

④ラスカル子ども映画祭として聖蹟桜ヶ丘駅周辺で映画上映・ワークショップ・展示・マンホールラリー等を実施した。事前抽選などの参加制限があるイベントと合わせて当日参加自由のイベントを実施したことが集客につながった。

⑤新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言などの発令によりイベントを控えていた商店会がイベントを再開した。令和4年度当初は実施予定の事業数が15件であり、実際に13件の事業を実施することができた。

⑥子ども家庭支援センターと連携し、昨今注目されるヤングケアラーへの支援をテーマとしたシンポジウムを実施し、多摩市におけるヤングケアラー支援体制の構築にむけ、気づきを共有した。講師の都合により、動画の配信はできなかったが、庁内外の相談支援機関や教育機関等から参加があり、課題を共有できた。

### 個別施策⑩ 各種イベント等の企画・運営への市民参画の推進

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業 関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①多摩センター地区四季折々のイベント	$\rightarrow$	①5/5 →		①4686000∕3983000 ↑
②多摩市民文化祭	$\rightarrow$	②1∕1 →	$\rightarrow$	②11407/7568 ↑ 26/19 ↑
③聖蹟桜ヶ丘地区四季折々のイベント	$\rightarrow$	③3/2 ↑	$\rightarrow$	③2939∕481 ↑
④パルテノン多摩の野外事業 (パルTAMAフェスin多摩センター)	$\rightarrow$	④0∕0 (休止) →	$\rightarrow$	④0/0 (休止) →
⑤多摩エコ・フェスタ	$\rightarrow$	⑤1/1 →	$\rightarrow$	⑤647∕450 ↑

指標A:①事業数(イベント数)②事業数③事業数(イベント数)④⑤事業数

指標B:①集客数②集客数、参加団体数③④⑤集客数

### 事業実績

①令和3年度は新型コロナウイルスの影響により縮小開催となっていたが、令和4年度は感染防止対策として各イベント期間をこれまでより延長し、分散開催を行ってきたため、集客数としては増加しているが、1日の平均集客数としてはこれまでより減少している状況であった。

②コロナ禍で制限等がある中でも、市民文化祭実行委員会や参加団体が各々に工夫し、対前年比で51%の集客数の増加があった。

③ラスカル子ども映画祭として聖蹟桜ヶ丘駅周辺で映画上映・ワークショップ・展示・マンホールラリー等を実施した。事前抽選などの参加制限があるイベントと合わせ て当日参加自由のイベントを実施したことが集客につながった。

④パルテノン多摩が独自で実施する野外でのフェスティバルであり、総合的に検討し、新たな事業として再構築する必要があるため、イベントは休止とした。 ⑤TAMAサスティナブル・アワードを開催するなど新たな取組も実施し、来場者を前回より200人近く増やすことができた。

### 推進項目9の事業実績の考察

※指標の推移

縮小開催となっていた事業が感染対策をしながらコロナ禍前とほぼ同規模で開催された。また、出店などの実施は見送ることもあったがこれまで控えられていたイベントが再開された。

アウト 初期アウト プット カム

「永山フェスティバル」では、令和3年度は写真展示のみであったが、令和4年度は規模を縮小しながらも開催され、永山駅周辺の活性化とリアル(対面)での地域住民、市民団体等の交流促進が図られた。また、「多摩センター地区四季折々のイベント」においては、感染防止対策として、各イベント期間をこれまでより延長し、分散開催を行ってきたため、集客数としては増加しているが、1日の平均集客数としてはこれまでより減少している状況であった。

増加増加

「聖蹟桜ヶ丘地区四季折々のイベント」では、ラスカル子ども映画祭が実施された。令和3年度は、Youtube上での動画配信だったが、令和4年度は、聖蹟桜ヶ丘駅周辺で映画を中心に様々なイベントが行われた。当日参加自由のイベントなど工夫されており、集客に結びつけることが出来ていた。

※指標の推移	増加	維持	減少	増一減
アウトプット	3	8	0	3
初期アウトカム	9	1	2	7

### 推進項目10 「連携・協働による子どもの成長への支援」

市民や地域と連携・協働しながら、子どもの成長や子育てをサポートします。

### 個別施策② 子育てに関わる者へのサポートの充実

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①地域子育て支援拠点事業	$\rightarrow$	①10∕10 →	$\rightarrow$	(1)129946 ∕ 76520 ↑
②子ども・子育てサービスガイド	$\rightarrow$	②3000/3000 →	$\rightarrow$	②3000/3000 →
③利用者支援事業(子育てマネージャーの配置)	$\rightarrow$	③10∕10 →	$\rightarrow$	③1224∕1136 ↑
④子ども家庭支援センター等の子育て世代向け講 座・事業	$\rightarrow$	<b>④</b> 12∕13 ↓	$\rightarrow$	④384/446 ↓
⑤放課後子ども教室	$\rightarrow$	⑤14/12 ↑	$\rightarrow$	⑤10616∕3582 ↑
⑥水辺の楽校		<b>⑥</b> 16∕5 ↑		⑥345∕230 ↑
⑦小学校PTA連絡協議会·中学校PTA連合会	$\rightarrow$	⑦25/25 →	$\rightarrow$	⑦指標なし

指標A:①実施個所数②配布部数③配置個所数④⑤⑥事業数⑦加入団体数 指標B:①利用者数②受取数③相談件数④参加者数⑤利用者数⑥参加者数

### 事業実績

①令和4年3月、パルテノン多摩4階に新たに「こどもひろばOLIVE」もオープンし、利用者は増加している。OLIVEにおいても子育てマネージャーを配置し、相談や地 域情報の提供等を行った。

②これから子育てを始める方に対しては母子健康手帳(親子健康手帳)交付時に配布を行うとともに、既に子育てをしている方に対しては、本庁及び各出張所並びに地 域子育て支援拠点等で子ども・子育てサービスガイドの配布を行うことで、多摩市における最新の子育てサービスの周知を図った。

③令和4年3月、パルテノン多摩4階に新たに「こどもひろばOLIVE」もオープンし、利用者支援事業も行っていることから、相談件数は増加している。 ④事業数・参加者数は減少したものの、様々な種類の事業を展開することで、子育て支援者のスキルアップにつながったほか、市民の子ども家庭支援センター子育てひ ろばへの利用促進につながったと考える。

⑤新型コロナウイルスの影響で規模を縮小した過去2年と比較し、令和4年度は徐々に事業の実施体制が整ってきたため、開催数が増加した。ただ、スタッフが不足して いる教室では、依然事業内容を縮小した形で実施したため、利用者数はコロナ禍前の水準には戻っていない。

⑥新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、近年、実施できなかった事業についても行うことができた。

⑦小学校16校、中学校9校が加入している市立小中PTAの2団体へ活動支援をするとともに団体の事業に要する費用を補助した。

### 個別施策② 学校と地域との連携強化

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業 関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①放課後子ども教室	$\rightarrow$	①14∕12 ↑	$\rightarrow$	(1)10616∕3582 ↑
②地域学校協働活動	$\rightarrow$	②26/26 →	$\rightarrow$	②5309∕3659 ↑
③コミュニティ・スクール	$\rightarrow$	③26/20 ↑	$\rightarrow$	③指標なし
④地域子育て支援拠点事業	$\rightarrow$	<b>④</b> 10∕10 →	$\rightarrow$	<b>(</b> 4)129946∕76520 ↑
⑤子ども家庭支援センター等の子育て世代向け講 座・事業	$\rightarrow$	⑤12∕13 ↓	$\rightarrow$	⑤384∕446 ↓
⑥利用者支援事業(子育てマネージャーの配置)	$\rightarrow$	⑥10/10 →	$\rightarrow$	<b>⑥</b> 1224∕1136 ↑

指標A:①事業数②実施校数③導入校数④実施個所数⑤事業数⑥配置個所数

|指標B:①利用者数②ボランティア数④利用者数⑤参加者数⑥相談件数

### 事業実績

①新型コロナウイルスの影響で規模を縮小した過去2年と比較し、令和4年度は徐々に事業の実施体制が整ってきたため、開催数が増加した。ただ、スタッフが不足して いる教室では、依然事業内容を縮小した形で実施したため、利用者数はコロナ禍前の水準には戻っていない。

②新型コロナウイルスの感染状況に配慮しつつ、コロナ禍前の状態への回復を目指し、各校における地域学校協働活動を展開した。ボランティア延べ人数は、コロナ禍 前のR1実績に近い数字まで回復した。

③市内小学校6校へ「学校運営協議会」を設置し、これに伴い、市内小中学校の全校が、「コミュニティ・スクール」へ移行した。 ④令和4年3月、パルテノン多摩4階に新たに「こどもひろばOLIVE」もオープンし、利用者は増加している。OLIVEにおいても子育てマネージャーを配置し、相談や地 域情報の提供等を行った。

⑤事業数・参加者数は減少したものの、様々な種類の事業を展開することで、子育て支援者のスキルアップにつながったほか、市民の子ども家庭支援センター子育てひ ろばへの利用促進につながったと考える。

⑥令和4年3月、パルテノン多摩4階に新たに「こどもひろばOLIVE」もオープンし、利用者支援事業も行っていることから、相談件数は増加している。

### 推進項目10の事業実績の考察

※指標の推移

新型コロナウイルスの影響により、近年、実施できなかった事業について行うことができるようになっている。また、新型コロナウイルスの影響

により事業数・参加者数が減少した事業もあるものの、どの事業においても継続して事業が実施されていた。 「地域子育て支援拠点事業」では、令和4年3月にパルテノン多摩4階に新たに「こどもひろばOLIVE」がオープンし、利用者が大幅に増加した。 さらに、子育でマネージャーを配置し、相談や地域情報の提供等も行われた。「子ども家庭支援センター等の子育て世代向け講座・事業」では、事 業数・参加者数は減ってはいるが、事業の種類を増やすことで、子育て支援者のスキルアップにつながっていることがあるため、定性的には向上が図られたと考えられる。この様に、指標だけでは計れない部分を、実績としてわかりやすく表現していくことも大切である。

「放課後子ども教室」では、新型コロナウイルスの影響で規模を縮小した体制が徐々に整ってきたことで、開催数、利用者数ともに増加してい る。

初期アウト プット カム

増加

増加

※指標の推移	増加	維持	減少	増一減
アウトプット	4	7	2	2
初期アウトカム	8	1	2	6

### 推進項目11「持続可能で元気な地域づくり」

市民や企業などと連携し、持続可能で元気な地域としての、多摩市らしさや多摩市の良さを実感できる学びの輪を広げながら、誰もが輝けるまちをつくります。

### 個別施策② 健幸まちづくりの推進

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①快汗スポーツDAY	$\rightarrow$	①36∕30 ↑	$\rightarrow$	①1260∕578 ↑
②多摩市に虹をかけよう大作戦	$\rightarrow$	②7/8 ↓	$\rightarrow$	②指標なし
③多摩市民文化祭	$\rightarrow$	③1∕1 →	$\rightarrow$	③11407∕7568 ↑ 26∕19 ↑

指標A:①事業数(実施種目数)②③事業数 指標B:①参加者数③集客数、参加団体数

### 事業実績

①新型コロナウイルスの状況が令和3年度と比較し、落ち着いた状況であったため、中止となっていたイベントが再開できたこと、また各イベントの参加者が前年度より増加したことから、参加者数が大きく伸びた。

②新型コロナウイルスの影響により、掲載事業数を絞ることとなったが、市民の行動変容につなげることを意識した発信を行った。

③コロナ禍で制限等がある中でも、市民文化祭実行委員会や参加団体が各々に工夫し、対前年比で51%の集客数の増加があった。

### 個別施策② 企業連携による学習・教育の推進

アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①子どもサッカー体験事業	$\rightarrow$	①1/中止 ↑	$\rightarrow$	①86/中止 ↑
②東京ヴェルディとの協働事業	$\rightarrow$	②13∕6 ↑	$\rightarrow$	②2625∕1607 ↑
③読売巨人軍との協働事業	$\rightarrow$	③3/2 ↑	$\rightarrow$	③982∕1057 ↓
④多摩市ESDコンソーシアム	$\rightarrow$	<b>④</b> 1∕1 →	$\rightarrow$	<b>4</b> 20∕18 ↑

指標A:①~③事業数④開催回数

指標B:①~④参加者数

### 事業実績

①感染症対策を講じながら3年ぶりの開催となった。例年110人定員で実施していたが、コロナ禍で申し込みが比較的少なかったこと、また申し込み者の中でも発熱等で参加を控える方が一定数いた。

②新型コロナウイルスの状況が令和3年度と比較し、落ち着いた状況であったため、中止となっていたイベントが再開できた。また、ヴェルディ側の協力もあり、ホームタウンデーや、各種スポーツ教室事業の回数を増加することができた。

③読売巨人軍に、感染症対策を徹底しながら事業を実施いただき、概ね例年ベースの参加者数となった。今年度は例年メインとして実施している野球教室に加え、ダンス教室を希望した保育施設があり事業数が1増加した。

④様々な企業や関連団体と多摩市の進めるESDについて共有することができた。「地域と学校をつなげる役割を担いたい」「子どもを通して大人への啓発を図りたい」 というご意見をいただけた。

### 個別施策② SDGsの取り組みの拡充

	_			
アクティビティ(事業概要)		アウトプット		初期アウトカム
関連事業		指標A【令和4年度/令和3年度】		指標B【令和4年度/令和3年度】
①水辺の楽校	$\rightarrow$	①16∕5 ↑	$\rightarrow$	①345∕230 ↑
②多摩市ESDコンソーシアム	$\rightarrow$	②1/1 →	$\rightarrow$	②20∕18 ↑
③健幸まちづくりシンポジウム	$\rightarrow$	③1∕1 →	$\rightarrow$	③72(参加者)╱398(視聴回数) ↓

指標A:①事業数②③開催回数 指標B:①②参加者数③視聴回数

### 事業実績

①新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、近年、実施できなかった事業についても行うことができた。

②様々な企業や関連団体と多摩市の進めるESDについて共有することができた。「地域と学校をつなげる役割を担いたい」「子どもを通して大人への啓発を図りたい」 というご意見をいただけた。

③子ども家庭支援センターと連携し、昨今注目されるヤングケアラーへの支援をテーマとしたシンポジウムを実施し、多摩市におけるヤングケアラー支援体制の構築にむけ、気づきを共有した。講師の都合により、動画の配信はできなかったが、庁内外の相談支援機関や教育機関等から参加があり、課題を共有できた。

### 推進項目11の事業実績の考察

※指標の推移

初期アウト

増加

新型コロナウイルスの影響により今まで中止となっていたイベントが再開できたことでの参加者数の増加や、新型コロナウイルスの影響は残っているものの、事業数を絞って実施するなど、工夫し事業が行われた。

「快汗スポーツDAY」においては、昨年度まで中止となっていたイベントが再開され、各イベントの参加者が前年度より増加したことから、参加者数が大きく伸びた。「多摩市民文化祭」については、新型コロナウイルスの制限緩和や会場がパルテノン多摩が使えることとなったため、参加者数が大幅に増加している。「東京ヴェルディとの協働事業」では、中止となっていたイベントが再開したことと、ヴェルディ側の協力により、ホームタウンデーや、各種スポーツ教室事業の回数が増加したことで、事業数・参加者数の伸びにつながった。

プット カム

増加

※指標の推移増加維持減少増一減アウトプット5414初期アウトカム8026

2	7
_	

指標の推移	アウトプット				1 1	初期アウトカム				
1日1末り71比1岁					抽中口		減少			
個別 ①CNC等な活用」な学習情報の共有、発信	增加 3	維持	減少 7	-4		增加 6	推 <del>行</del>	減少 5	増一減	
個別 ①SNS等を活用した学習情報の共有・発信 施策 ②ライフスタイルの変化に対応した学習の情報共有	2	3	1	- <del>4</del> 1		3	0	2	1	
推進項目1「広報・情報提供」	5	4	8	-3		9	0	7	2	
推進項目!	J 3	4	0	-3		9	U	/	2	
	.,,,			137 . 5	1 1	137.1			11/ 15	
	増加		減少	増一減		増加	維持		増一減	
個別 ③生活課題等の相談・支援体制の強化	1	3	0	1		3	0	2	1	
施策 ④相談の場の充実口	2	0	1	1		3	0	0	3	
推進項目2「相談」	3	3	'	2		6	0	2	4	
					1 1					
	増加	維持	減少	増一減		増加	維持		増一減	
個別 ⑤居場所のネットワーク化 施策 ⑥場の提供(ハード面のサポート)	1	2	0	1		3	0	0	3	
(a) -300 Me (A) (b) 1 (a) (b) 1 (b) 1 (b) 1 (c)	8	1	1	7		6	0	1	5	
推進項目3「居場所・場づくり」	9	3	1	8		9	0	1	8	
	増加	維持	減少	増一減		増加	維持		増一減	
個別で地域団体との連携	4	1	0	4		8	1	0	8	
施策 ⑧地域活動の担い手育成	2	3	3	-1		3	1	5	-2	
推進項目4「地域活動・地域づくり」	6	4	3	3		11	2	5	6	
					, .					
	増加	維持	減少	増一減		増加	維持	減少	増一減	
個別 (9市民企画(提案)型講座・事業の拡充	1	1	1	0		2	0	1	1	
施策 ⑩多世代交流の場づくりの推進	8	2	1	7		9	0	1	8	
推進項目5「学習の機会づくり」	9	3	2	7		11	0	2	9	
	増加	維持	減少	増一減		増加	維持	減少	増一減	
個別 ①ボランティアセンターの充実	1	0	0	1		1	0	0	1	
施策 ②市民活動やボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり	3	1	1	2		6	1	2	4	
推進項目6「ボランティア・市民活動」	4	1	1	3		7	1	2	5	
	増加	維持	減少	増一減		増加	維持	減少	増一減	
個別 ③市内大学とのネットワークの構築口	1	1	0	1		0	0	1	-1	
施策   ・   ・   ・   ・   ・   ・   ・   ・   ・	0	1	0	0		0	0	1	-1	
推進項目7「大学・社会教育施設との連携」	1	2	0	1		0	0	2	-2	
	増加	維持	減少	増一減		増加	維持	減少	増一減	
⑤オンライン・通信教育での学習サポート	0	2	1	-1		2	0	2	0	
個別施策・ジャズンシップ学習の拡充	1	2	1	0		4	0	0	4	
①様々な状況に応じた学習・生活のサポート	4	2	0	4		4	0	2	2	
推進項目8「誰もが学べる環境づくり」	5	6	2	3		10	0	4	6	
	増加	維持	減少	増一減		増加	維持	減少	増一減	
個別 ®市民・民間・行政が一体となった事業等の実施	2	4	0	2		4	0	2	2	
施策 鳴各種イベント等の企画・運営への市民参画の推進	1	4	0	1		5	1	0	5	
推進項目9「市民協働の機会づくり」	3	8	0	3		9	1	2	7	
									-	
	増加	維持	減少	増一減		増加	維持	減少	増一減	
個別 ②子育てに関わる者へのサポートの充実	2	4	1	1		4	1	1	3	
施策②学校と地域との連携強化	2	3	1	1		4	0	1	3	
推進項目10「連携・協働による子どもの成長への支援」	4	7	2	2		8	1	2	6	
									<del></del>	
	増加	維持	減少	増一減	]	増加	維持	減少	増一減	
②健幸まちづくりの推進	1	1	1	0		3	0	0	3	
個別 ②企業連携による学習・教育の推進	3	1	0	3		3	0	1	2	
② SDGsの取り組みの拡充	1	2	0	1		2	0	1	1	
推進項目11「持続可能で元気な地域づくり」	5	4	1	4		8	0	2	6	
			-	•						

### 事業実績の考察のまとめ

		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
項目No.	推進項目	内部評価
1	推進項目1 「広報・情報提供」	依然として新型コロナウイルスの影響を受けている事業がある一方、平時に戻りつつある事業もあり、各事業工夫しながら情報発信・情報提供が行われていた。「ライフウェルネス教材」のように教材の活用が促進できる状況にはなかった事業もあったが、「健幸Spot」のように少しずつ利用者数が戻りつつある事業もあった。 「YouTube多摩市公式チャンネル」では、コロナ禍での「児童館事業の代替としての動画公開」が多くを占めていた時期からの転換と、集合研修の制限がなくなり、動画研修が減少したことから、動画の公開数が減少している。一方、動画編集専用端末の稼働率は高く、動画を活用した広報は庁内に浸透しつつあるといえる。今後は、オンラインの数値だけ見るのではなくリアルとの両面から見ていく必要がある。また、「公民館通信」については、新型コロナウイルスの影響もあり、発行部数が年々減少しているが、年度を通して発行され、公共施設や関係機関等に配布された。
2	推進項目2	「ふれあいいきいきサロン」の新規立ち上げや「多摩市立市民活動・交流センター」の開館などで相談の場づくりを広げられた。「ふれあいいきいきサロン」では、新たなサロンが立ち上がり、コミュニティづくりが推進された。新たにオープンした「多摩市市民活動・交流センター」では、市民活動の相談や活動へつなげるための場として、期待の持てる施設である。 「多摩市版地域包括ケアシステム」においては、多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会によって相談窓口やサポート体制づくりが強化された。多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会は、昨年、準備会が開催され、3月には代表者会議・エリア別情報交換会が行われ、生活課題等の相談・支援体制の強化が推進された。
3	推進項目3 「居場所・場づく り」	今まで「ふれあいいきいきサロン」がなかった地区での新規サロン立ち上げや、新たな施設の開館により、居場所づくりが推進された。 「ふれあいいきいきサロン」の数が増えたことで、居場所のネットワーク化を拡充することができた。また、「地域子育て支援拠点」として 「こどもひろばOLIVE」がパルテノン多摩にオープンした。新たな施設として「多摩市市民活動・交流センター」が開館し、「学びや活動の 場」を提供することができたことは、今後の生涯学習の大きな柱となることが期待出来る。また、物価高騰などの社会環境の変化に伴い、今後、 「子ども食堂・誰でも食堂」のニーズは上がっていくことが想定されるため、必要な人に情報が届くように周知を続けることが大切である。「図書館」の登録者数については、新規登録者及び過去2年間での貸出の実績がある登録者を合計としている。内訳として新規登録者は増えているが、継続利用している登録者が減少しており、継続して利用してもらう取り組みが必要である。
4	推進項目4 「地域活動・地域づ くり」	中止していたイベントを開催し地域団体との連携が図られたことや、中止していた講座が再開され、地域活動の担い手育成も行われた。「地域ふれあいフォーラム」においては、「VITAふれあいまつり」として新たな形で再開され、新たな人材発掘や地域で活動する市民団体のネットワーク化が促進された。また、「わがまち学習講座」を開催し、まちの課題や地域の問題点について市民と考える機会を提供することや、「市民企画講座」では講座終了後も学びの継続などが報告されるなど、地域活動の担い手の育成が図られた。「(仮称)地域委員会構想」では、令和5年度から試行実施する「地域担当職員」と中間支援組織との整理等を行い、具体的な協働のしくみづくりに向けて議論が行われ、地域づくりが前進した。
5	推進項目5 「学習の機会づく り」	「出前講座・講師派遣制度」においては新型コロナウイルスの影響もあり、自治会・学校からの依頼が減少している一方、「出前講座」では休止していた団体からの申し出があり、「市民企画講座」では講座終了後も学びの継続が報告された。また、多くの公共施設では、感染対策をしつつも、コロナ禍前に近い水準で、開館することができていた。 「公民館」においては、新型コロナウイルスに対する臨時休館や開館時間を短縮せず開館することができた。「学校跡地の市民開放」においては、施設数が減少したことで来館者数が大幅に減少していた。「出前講座・講師派遣制度」においては、新型コロナウイルスの影響により外部からの依頼が減少したまま解消されないために減少している。一方、「学校開放」のようにコロナ禍で落ち込んでいた利用がコロナ禍前に近い水準にまで回復してきている事業もあった。
6	推進項目6 「ボランティア・市 民活動」	ボランティア団体はコロナ禍の中でも継続して活動していた。 「多摩ボランティア・市民活動支援センター」においては、ボランティアセンターのリニューアルや今まで新型コロナウイルスの影響で閉じていた施設を再開したことにより市民活動が増え、開館日数・来館者数が増加につながった。一方、援農ボランティアのように、受け入れ農家数に対してボランティア数が多くなってきたため、募集を絞った事業も見られる。 「グリーンボランティア活動」では、コロナ禍においても、講座の参加者に大きな落ち込みはなく、市民の興味を引くボランティア活動であると考えられる。
7	推進項目7 「大学・社会教育施 設との連携」	新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきたことで、オンラインでの受講形式から会場での対面形式にきりかえる動きが見えてきた。「健幸まちづくりシンポジウム」は、講師の都合で動画配信ができなかった為、参加者数は減少しているが、令和4年度からは会場にて開催することができ、リアル(対面)での学びの機会づくりが再開されている。また、「大学連携事業」では、事業数が令和元年の99事業から大きく減少していたが、令和3年度には55事業、令和4年度では66事業と回復しており、新型コロナウイルスの影響が緩和されたと考えられる。「関戸地球大学院」では、成果(初期アウトカム)は伸びていないが、講座の中の1つであるたま学びテラス事業では、会場受講及びオンライン受講を併用したことにより、市内外問わず幅広く受講機会が提供されていた。
8	推進項目8 「誰もが学べる環境 づくり」	オンラインでの実施からリアル(対面)での実施へきりかえることができた事業がある中で、依然として新型コロナウイルスの影響を受けて実績が減少している事業や実施状況が現状維持にとどまった事業もあった。 「日本語教室」では成果(初期アウトカム)は伸びており、新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かったこと等もあり、オンラインからリアル(対面)への移行が顕著であった。 「平和・人権課及びTAMA女性センターが実施する関連講座・事業」では、市制50周年記念事業として実施したハンドスタンプアートの制作・展示の参加者数が想定を大きく上回り、成果(初期アウトカム)の大幅な増加となっていた。この大幅な増加要因は、市制50周年記念事業による特例的なものであったが、今後も市民の関心と理解が広がる啓発事業が企画されることを期待したい。 「防災に関するDVD等の無料貸出」では、自主防災組織の防災訓練が再開されはじめたことにより、DVDの貸出数が減少していた。
9	推進項目9 「市民協働の機会づ くり」	縮小開催となっていた事業が感染対策をしながらコロナ禍前とほぼ同規模で開催された。また、出店などの実施は見送ることもあったがこれまで控えられていたイベントが再開された。 「永山フェスティバル」では、令和3年度は写真展示のみであったが、令和4年度は規模を縮小しながらも開催され、永山駅周辺の活性化とリアル(対面)での地域住民、市民団体等の交流促進が図られた。また、「多摩センター地区四季折々のイベント」においては、感染防止対策として、各イベント期間をこれまでより延長し、分散開催を行ってきたため、集客数としては増加しているが、1日の平均集客数としてはこれまでより減少している状況であった。 「聖蹟桜ヶ丘地区四季折々のイベント」では、ラスカル子ども映画祭が実施された。令和3年度は、Youtube上での動画配信だったが、令和4年度は、聖蹟桜ヶ丘駅周辺で映画を中心に様々なイベントが行われた。当日参加自由のイベントなど工夫されており、集客に結びつけることが出来ていた。
10	推進項目10 「連携・協働による 子どもの成長への支 援」	新型コロナウイルスの影響により、近年、実施できなかった事業について行うことができるようになっている。また、新型コロナウイルスの影響により事業数・参加者数が減少した事業もあるものの、どの事業においても継続して事業が実施されていた。 「地域子育て支援拠点事業」では、令和4年3月にパルテノン多摩4階に新たに「こどもひろばOLIVE」がオープンし、利用者が大幅に増加した。さらに、子育てマネージャーを配置し、相談や地域情報の提供等も行われた。「子ども家庭支援センター等の子育て世代向け講座・事業」では、事業数・参加者数は減ってはいるが、事業の種類を増やすことで、子育て支援者のスキルアップにつながっていることがあるため、定性的には向上が図られたと考えられる。この様に、指標だけでは計れない部分を、実績としてわかりやすく表現していくことも大切である。 「放課後子ども教室」では、新型コロナウイルスの影響で規模を縮小した体制が徐々に整ってきたことで、開催数、利用者数ともに増加している。
11	推進項目11 「持続可能で元気な 地域づくり」	新型コロナウイルスの影響により今まで中止となっていたイベントが再開できたことでの参加者数の増加や、新型コロナウイルスの影響は残っているものの、事業数を絞って実施するなど、工夫し事業が行われた。 「快汗スポーツDAY」においては、昨年度まで中止となっていたイベントが再開され、各イベントの参加者が前年度より増加したことから、参加者数が大きく伸びた。「多摩市民文化祭」については、新型コロナウイルスの制限緩和や会場がパルテノン多摩が使えることとなったため、参加者数が大幅に増加している。「東京ヴェルディとの協働事業」では、中止となっていたイベントが再開したことと、ヴェルディ側の協力により、ホームタウンデーや、各種スポーツ教室事業の回数が増加したことで、事業数・参加者数の伸びにつながった。

# 令和4年度 第4次多摩市生涯学習推進計画 評価報告書

2024 (令和6) 年2月発行

制作•編集

多摩市 くらしと文化部 文化・生涯学習推進課

印刷物番号 5-40